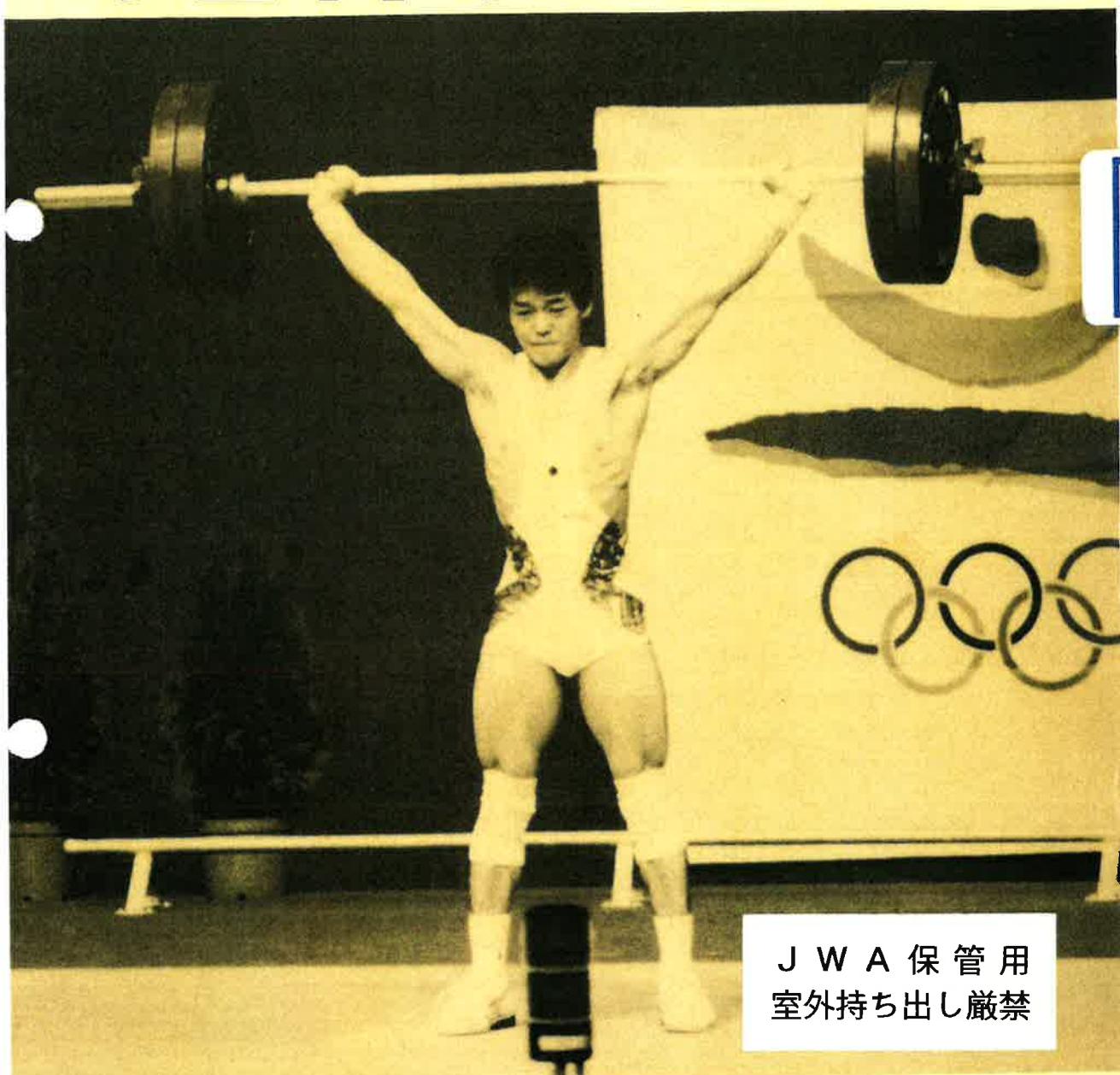




Japan Weightlifting Association

ウェイトリフティング



JWA 保管用
室外持ち出し厳禁

バルセロナ五輪
特集号

1992 No.54
(社)日本ウェイトリフティング協会会報

ウェイトリフティングNO. 54

目 次

体重階級変更決定	2
第52回全日本選手権大会	7
第25回オリンピック競技大会	13
第39回全国高等学校総合体育大会	26
第6回全国中学生選手権大会	34
第27回日・韓親善（男女）大会	38
第14回日・韓ユース大会	40
クラブ紹介	42
訃報、黒川さん死去	43

※ 表紙は、バルセロナ オリンピック競技大会出場日本代表選手中、最上位の5位入賞を果たした56kg級の佐久間勝彦。スナッチ120kg、好記録成功の瞬間。

体重階級変更決定！

約100年振りの大幅変更

かねてから、国際ウエイトリフティング連盟(IWF)で検討されていた、体重階級の変更が1992年11月15日、スペインのカナリア諸島テネリフェで行なわれた総会において、ついに決定した。

既に、新聞紙上等で報道されているように薬物違反が後を絶たない、ウエイトリフティングに対し、国際オリンピック委員会(IOC)は「薬物違反をなくさなければ1996年のアトランタオリンピックからウエイトリフティングを追放する」と警告するに至った。

それを受けたIWFは浄化努力として、違反については例え初犯であっても永久追放、その選手の國も1年間の資格停止処分にするという厳しい姿勢を打ち出し、バルセロナオリンピック代表の条件としても、厳格なドーピング検査を実施するIWF指定の国際競技会に出場した選手のみを認め、さらにオリンピックの大会直前に全選手に抜き打ち尿検査を行なうなど、徹底した方策を講じた。

その“成果”として、このところ世界新記録がほとんど出なくなってしまったが、薬物を使用しないで頑張ってきた日本のリフター

にとっては、ようやく“公平な競技”が行なえる、喜ばしい正常な状態が戻ってきた。

とはいっても、薬物なしには越えられない“疑惑の大記録”をそのままにしていては、世界記録が出ない競技になってしまうという、予想されていた深刻な事態を開拓するために、IWFは長年にわたり慎重審議を重ね、従来の記録を棚上げとし、新たな体重階級で再スタートする道を決断するに至った。

新体重階級は、従来の階級と数字の上で重ならないこと、減量に対し少しでも負担が軽くなるように(ことに中・重量級の)という配慮もされたということであったが、小柄な人も多いアジア諸国の中から、54kg級以下の設置を望む要望もあった。

新体重階級による競技の実施は、世界・日本ともに1993年1月1日からのスタートが決定した。

IWF総会では、体重階級制の問題の他、いくつかのルール改定もなされたので、本誌に掲載する。ただし、完全な翻訳による新ルールブックは、目下編纂中であり、完成次第の配布を予定している。

IWFルール主な変更点について

1-Ⅰ 規定種目

- (4) 削除 (特別試技は、いかなる場合も許されない。)

1-II 競技者

- (2) IWFは、2つの大きな年齢別グループを公認する。

ジュニア：20歳まで(その年の12月31日に21歳未満のもの)

シニア：

ベテラン：削除

《解説》

- オリンピック大会・世界選手権 大会の出場最低年齢を15歳とする。
- 女子世界選手権大会の出場最低年齢を15歳とする。
- これらの年齢は、満年齢とする。

1-III 階級

- (1) 男子のジュニア及びシニアは、10階級とする。

54 Kg級	83 Kg級
59 Kg級	91 Kg級
64 Kg級	99 Kg級
70 Kg級	108 Kg級
76 Kg級	+108 Kg級

- (2) 女子は、9階級とする。

46 Kg級	70 Kg級
50 Kg級	76 Kg級
54 Kg級	83 Kg級
59 Kg級	+ 83 Kg級
64 Kg級	

3-V 時 計

- (1)-a) 2分間計時できること。
(1)-c) 与えられた時間の30秒前に自動的に警告の合図ができる装置を備えていること。

4-I コスチューム

- (1) 競技者は、見た目に美しく、競技に支障がなく、レフリーの視界・判定の妨げにならないコスチュームを着用しなければならない。
(2)~(4) 削除
(5) 宣伝に関する規定：15cm以下に限る。

4-II ウエイトリフティング シューズ

- (5) ヒール上部より靴の上部までの長さは14cm以下とする。

4-IV バンテージ・テープ及びプラスター

- (1) バンテージ・テープ又はプラスターを、手首・膝・手・指・親指につけてもかまわない。
(2) バンテージは、ガーゼ・医用クレープ・革とする。膝には、ゴム製のニーキャップをしてもかまわない。
(10) 追加
手の平を守るため、特別のプロテクターをつけてもかまわない。

1-I 規定種目

- (4) 削除 (特別試技は、いかなる場合も許されない。)

1-II 競技者

- ※ (2) JWAは、5つの大きな年齢別グループを公認する。
中学生：学校教育法に示された生徒
高校生：学校教育法に示された生徒
大学生：学連登録4年間の学生
ジュニア：20歳まで（その年の12月31日に21歳未満のもの）
ベテラン：40歳以上

《解説》

- 全日本選手権・ジュニア選手権大会の出場最低年齢を15歳とする。
- 全国女子選手権大会の出場最低年齢を15歳とする。
- これらの年齢は、満年齢とする。

5-III 検 量

- (8) 競技者は、全裸又は下着だけで検量する。女子の競技者には、女性のレフラーだけで実施する。
(12) 1階級1名の競技者の場合のセコンドの人数は3名以内。
1階級2名の競技者の場合のセコンドの人数は4名以内。

5-IV 紹 介

- (1) 15分前に紹介を開始する。

5-V 競技会進行

- (7) コールされてから試技までに1分間が許される。30秒経過後に警告の合図ができる。連続試技の場合は、コールされてから試技までに2分間が許され、1分30秒経過後に警告の合図ができる。
(8) 削除
(11) ファイナルコールとは、自分が与えられた時間の30秒前に計時係より出された合図のことである。
(12) コール後の重量増加により、他の競技者が先に試技をする場合の試技時間は、規定の1分間とする。

7 世界記録

- VII・IX・X・XII 削除
VIII 特別試技の箇所を削除

競 技 規 则 変 更 に つ い て

※印は審議事項

1-III 階 級

- (1) 男子の高校生以上は、次の10階級とする。

54 Kg級	83 Kg級
59 Kg級	91 Kg級
64 Kg級	99 Kg級
70 Kg級	108 Kg級
76 Kg級	+108 Kg級

- (2) 女子は、次の9階級とする。

46 Kg級	70 Kg級
50 Kg級	76 Kg級
54 Kg級	83 Kg級
59 Kg級	+ 83 Kg級
64 Kg級	

- ※ (3) 中学生は、次の10階級とする。

44 Kg級	64 Kg級
48 Kg級	68 Kg級
52 Kg級	72 Kg級
56 Kg級	76 Kg級
60 Kg級	+76 Kg級

※ (4) マスターズ

3-V 時 計

- (1)-a) 2分間計時できること。
 (1)-c) 与えられた時間の30秒前に自動的に警告の合図ができる装置を備えていること。

4-I コスチューム

- (1) 競技者は、見た目に美しく、競技に支障がなく、レフリーの視界・判定の妨げにならないコスチュームを着用しなければならない。
 (2)～(4) 削除
 (5) 宣伝に関する規定：15cm以下に限る。

4-II ウエイトリフティング シューズ

- (5) ヒール上部より靴の上部までの長さは14cm以下とする。

4-IV バンテージ・テープ及びプラスター

- (1) バンテージ・テープ又はプラスター手首・膝・手・指・親指につけてもかまわない。
 (2) バンテージは、ガーゼ・医用クリープ・革とする。膝には、ゴム製のニーキャップをしてもかまわない。

7 世界記録

1 IWFは、世界記録とジュニア世界記録を、男子10階級・女子9階級のそれぞれのスナッチ・クリーン＆ジャーク及びトータルについて公認する。

2 世界記録については、ジュニアの競技者が樹立しても公認する。世界記録は、年齢に関わりなく公認する。

3 世界記録は、世界選手権大会・大陸選手権大会・オリンピック大会・地域大会・ワールドカップグラ等IWFが選んだ大会で樹立された場合のみ公認される。IWF指導のもとにドーピングコントロールを行なったものについて公認する。

※ 大陸選手権：ヨーロッパ選手権・アジア選手権等をさす。

地域大会：アジア競技大会等をさす。

- (10) 追加
 手の平を守るために、特別のプロテクターをつけてもかまわない。

5-III 検 量

- (8) 競技者は、全裸又は下着だけで検量する。女子の競技者には、女性のレフリーディケートだけで実施する。
 (12) 1階級1名の競技者の場合のセコンドの人数は3名以内。
 1階級2名の競技者の場合のセコンドの人数は4名以内。

5-IV 紹 介

- (1) 15分前に紹介を開始する。

5-V 競技会進行

- (7) コールされてから試技までに1分間が許される。30秒経過後に警告の合図である。
 連続試技の場合は、コールされてから試技までに2分間が許される。1分30秒経過後に警告の合図である。
 (8) 削除
 (11) ファイナルコールとは、自分が与えられた時間の30秒前に計時係より出された合図のことである。
 (12) コール後の重量増加により、他の競技者が先に試技をする場合の試技時間は、規定の1分間とする。

7 世界記録

VII・IX・X・XII 削除

VIII 特別試技の箇所を削除

- 4 世界新記録は、アンチドーピングテストを受けて合格した競技者によって樹立されたものでなければならない。
- 5 世界記録は、3人の国際レフリーによって判定されたものでなければならない。
- 6 世界記録の申請は、次の条件が満たされなければならない。
- (1) 記録は、前の記録を500g上回っている時に効力をもつ。500g以下の重量は切り捨てられる。
 「例」 87.7Kgの場合は、87.5Kgとして登録される。
 (2) バーベルの重量は、競技開始前に確認されていること。
 (3) 3人のレフリーは、次の事項を確認の

上、署名しなければならない。

- ◇ 試技の成功の確認
- ◇ 競技者の氏名
- ◇ 競技者の体重
- ◇ バーベルの重量
- ◇ 会場地
- ◇ 期日と競技会名
- ◇ 競技者の生年月日（ジュニア記録の場合）

- (4) 更に、この用紙には IWF 会長又は事務局長の署名がされていなければならない。
- (5) 世界記録を樹立した選手は、全てアンチドーピングテストを受けなければならない。

7 2.5Kg の倍数でない重量を希望して成功した場合は、2.5Kg の倍数以内の重量がトータル記録のための記録として認められ、実際に成功した重量が新記録として認められる。

《解説》

現記録が 152.5Kg の場合、153Kg を希望して成功した場合は、152.5Kg がトータル記録として認められ、153Kg が新記録として認められる。157Kg に成功した場合は、155Kg がトータル記録として認められる。

新記録に成功した後でも、更に新しい記録に挑戦できる。

8 定められた競技会に参加した競技者だけが記録に挑戦することができる。その他の選手は、記録に挑戦する目的だけで競技会

に参加することはできない。

9 スナッチ又はクリーン & ジャークで新記録が樹立された後は、それを突破したい競技者は、少なくとも 500g 以上越えなければならぬ。体重が軽いといえども後から行なう競技者がその記録に成功しても、新記録とはならない。

10 トータルで新記録が樹立された後は、それを突破したい競技者は、従来の記録を 2.5 Kg 以上越えなければならない。競技者の体重の如何に関わらず 2 名又はそれ以上の競技者が同記録で新記録を樹立した場合は、先に樹立した競技者が記録保持者となる。

11 オリンピック記録は、スナッチ・クリーン & ジャーク・トータルとも 2.5Kg の倍数とする。

世界記録は、通常の試技（1～3回）においてスナッチ・クリーン & ジャークとも記録用ディスクにより達成することができる。

12 大陸・地域記録は、スナッチ・クリーン & ジャーク・トータルとも 2.5Kg の倍数とする。

大陸・地域記録は、通常の試技（1～3回）においてスナッチ・クリーン & ジャークとも、記録用ディスクにより達成することができる。

※ 世界選手権大会等のレフリーは、異なった国のレフリーでなければならない。

8 日本記録

1 (社)日本ウエイトリフティング協会は、下記に区分の日本記録を、男子 10 階級女子 9 階級のそれぞれのスナッチ・クリーン & ジャーク及びトータルについて公認する。

記

- (1) 男子 日本記録
ジュニア日本記録
大学記録
高校記録
中学記録（階級については JWA 独自のものである）
- (2) 女子 日本記録
高校記録

《解説》

1993 年の日本記録の認定は、1 月 1 日から 8 月 31 日までに開催された国際大会・全日本規模の大会・ブロック規模の大会で樹立された最高記録を 9 月 1 日付けにて、最初に公認する。

1 月 1 日から 8 月 31 日の間に、ブロック規模以上の大会を開催した責任者は、レフリー署名の記録表を、大会終了 1 週間以内に日本協会に提出すること。

- ① 国際大会とは、2 國間の大会も含む。
② 全日本規模の大会とは、大会タイトルに全国・全日本と明記されているもの及び特に全国から選ばれて参加資格を有す

るような大会をさす。

- ③ ブロック規模の大会とは、東日本選手権・東海高校大会等行政ブロックを越える規模で開催される大会をさす。

2 日本記録については、年齢に関わりなく公認する。

3 上記1-(1)・(2)の7区分の記録は、国際大会・全日本規模の大会・ブロック規模の大会で樹立されたものについて公認する。

ただし、国際大会・全日本規模の大会については、その都度公認する。

ブロック規模の大会は、別様式の申請書を大会終了1週間以内に日本協会に提出しなければならない。

《解説》

上記の適用は、1993年の9月1日以降とする。都道府県レベルの大会では、日本記録を認めない。

4 上記1-(1)・(2)の7区分の記録は、公認審判員によって判定されなければならない。

5 審判員編成は、異なった都道府県の審判員でなければならない。

6 ブロック規模の大会における記録の申請は、次の条件を満たされなければならない。

- (1) 記録は、前の記録を500g以上上回っていること。
- (2) バーベルの重量は、競技開始前に確認されていること。
- (3) レフリーは、次の事項を確認の上、署名しなければならない。

- ◇ 試技の成功の確認
- ◇ 競技者の氏名
- ◇ 競技者の体重
- ◇ バーベルの重量
- ◇ 会場地
- ◇ 競技会名
- ◇ 競技者の生年月日

7 各種目3回の試技の中で、2.5Kgの倍数でない重量を希望して成功した場合は2.5Kgの倍数の重量がトータル記録のための記録として認められ、実際に成功した重量が新記録として認められる。

《解説》

現記録が152.5Kgで153Kgを希望して成功した場合は、152.5Kgがトータル記録として

認められ、153Kgが新記録として認められる。

157Kgに成功した場合は、155Kgがトータル記録として認められる。新記録に成功した後も、更に新しい記録に挑戦できる。

新記録挑戦のための500g単位の重量は、各種目1回目から3回目までのどの試技でもできる。

8 競技会の参加資格を得ている競技者だけが記録に挑戦することができる。

参加資格を得ていない選手は、記録に挑戦する目的だけで競技会に参加できない。

9 スナッチ又はクリーン＆ジャークで新記録が樹立された後は、それを突破したい競技者は、少なくとも500g以上越えなければならない。体重が軽いといえども後から行なう競技者がそれと同じ重量の記録に成功しても新記録とはならない。

10 トータルで新記録が樹立された後は、それを突破したい競技者は、従来の記録を2.5Kg以上越えなければならない。競技者の体重の如何に関わらず2名又はそれ以上の競技者が同記録で新記録を樹立した場合は、先に樹立した競技者が記録保持者となる。

12 大会記録は、スナッチ・クリーン＆ジャーク・トータルとも2.5Kgの倍数とする。

日本記録は、通常の試技(1~3回)においてスナッチ・クリーン＆ジャークとともに記録用ディスクにより達成することができる。

13 もし、1-(1)・(2)の7区分の記録が同日に異なる場所で樹立された場合は、いずれも公認される。

第52回全日本選手権大会

水野(75kg級) 西本(100kg級)

ジャーヴィス新!

初優勝選手6名

第52回全日本選手権大会は、6月23日・24日の2日間、千葉市ポートアリーナにおいて開催された。

ウエイトリフティング会場としては、大き過ぎるほど大きい体育館で大会は行なわれたが、新しく実に立派な体育館である。いつかこのような大体育館に満杯の観客を集め、大國際試合を開催したいという夢は、地元千葉県関係者にあっては、ごく自然な気持ちとして湧くであろうと思えるほど、立派な体育館である。

<52kg級>

オリンピック予選終了後の今大会にあつては、代表権獲得のために血眼になって全力を尽くしてきたトップレベルの選手達にとっては、減量で苦しんでまで全日本のタイトルにこだわる気はなくなってしまうのは、流れとして仕方ないことであろう。

そんなことから今回の52kg級の出場者は、たった1名になってしまい佐々木 啓(中大)が、初優勝を遂げた!?

<56kg級>

52kg級でオリンピック代表権を賭けて、しのぎを削った渡辺 博(富士急)、池畠 大(大阪商大)、伊禮 淳(香川県スポーツ振興財団)後藤親哉(自衛隊体校)らが、大挙クラスを上げて出場。迎え撃つ56kg級ベテラン選手原 啓(前橋育英高・教)が、56kg選手の意地を賭けて対決。

原は、よく体調と相手を考えた作戦で、スナッチ、ジャークとともに2本成功、スナッチ110kg、ジャーク142.5kg、トータル252.5kgと、まずまずの記録を挙げたが、オリンピック予選に心残りのある池畠の、渡辺に対する追撃は厳しく、一方の渡辺は、オリンピック予選の疲れを感じさせない好調さと自信に溢れ、スナッチ2本成功の115kg、ジャークは3本成功の140kg、トータル255kgを挙げ、池畠の追い込みを振りきり、2.5kg差3回目の優勝を遂げた。原もよく健闘したが渡辺と池畠の若いエナジイに押され、トータル252.5kg、体重差

で池畠に先を越され3位となつた。

56kg級の闘いは今大会で、もっとも見応えのある内容であった。

<60kg級>

60kg級も、オリンピック代表の佐久間勝彦(ゼビオ)と新田勝久(自衛隊体校)が56kg級から上がり、橘 典人(日大)と森下良平(大阪市信金)が、これを迎え撃つという形で体重階級の“よそ者”と“地元”的争いとなつた。

オリンピック代表有力候補であった橘は、うっふん晴らしをするためにも、今回は負けたくないところであったろうが、スナッチで1本のみ成功112.5kgに止まり、これまたスナッチ1本成功120kgに終わった佐久間と、ジャーク苦手の佐久間に於いては上出来の145kg成功に対し、体重の重い橘は逆転のために155kgを挙げる以外に余地はなくなつた。結果はクリーンしたもののジャークで潰れ、日大の先輩佐久間の初優勝を阻止できず、このクラスも56kg級と同じく“よそ者”に圧倒されてしまった。

<67.5kg級>

67.5kgは、60kg級オリンピック代表の岩田洋介(水島工高・教)が階級アップ、竹田 貢(京都府体育協会)と磯村賢一(牧丘町役場)に闘いを挑んだ。

60kg級までと異なり、さすがに67.5kg級ともなると、本来60kg級の岩田にとっては、7.5kgの体重クラスハンデは大きい。失敗なしのパーフェクト試合を演じほぼ力を余すことなく頑張ったが、成功率半分の3本でトータル282.5kgをマークした竹田に、2.5kg差で破れた。竹田は初優勝であった。

鶴見英司(鶴岡西高・教)、堀越典昭(日体大)らの欠場で盛り上がりに欠けたクラスであった。

<75kg級>

このところ67.5kg級と75kg級を行ったり来たりして“放浪者”的感の西澤勝美(自衛隊体校)が、今やこのクラスの主となつた水野

英郎(日大)に、どこまで迫るか、水野がまた日本記録を塗り替えるか、といったところに興味が持たれたが、西澤は不調でまったくいいところなく、スナッチ、ジャークともに1本づつのみ成功、トータル290kgの低調な記録で終わり、水野に近づくどころではなかった。

一方、水野は好調な印象でトータル330kgを越える記録が出そうに思えたが、エンジンがかからないうちに試合が終わってしまったような感じであった。しかし、ジャークの特別試技で185kgの日本新記録を樹立するなど、実力のほどを示し、2度目の優勝に花を添えた。

<82.5kg級>

82.5kg級と90kg級に敵なしの砂岡良治(ユニデン)が今大会欠場。このクラス2番手に成長してきた杉山 崇(静岡県W.L.協会)がどんな記録を出すかに注目したいところであった。しかし、度重なるオリンピック標準記録への挑戦の疲労がたまってしまったのか、今回は対抗相手がいなかつせいか、トータル315kgの平凡な記録での初優勝であった。

<90kg級>

あるいは90kg級で出場かもと期待の砂岡がこのクラスでも欠場。渡辺浩幸(NEC山梨)と稻垣英二(日大)、節田英昭(日大)他、そして力量の差のない7名のリフターによって接戦の優勝争いとなり、渡辺が順調に成功率を稼いだが、ジャークの最後までもつれ込み、渡辺が昨年の本人の優勝記録320kgを下回るトータル307.5kgの低調な記録ながら2連覇を果たした。

佐野 J & 日本新！

<100kg級>

このクラスはオリンピック代表を目指し、頑張っていた西川智之(京都府体協)の初優勝が有力と見られていた。結果は成功試技3本といまひとつであったが、トータル335kgで順当に優勝した。

トップに立てなかつたとはいえ、伸びてきたのは安田英樹(日大)であり、展開次第では優勝もできそうであった。

将来を期待される若手の一人、佐野 衛(自衛隊体校)は、スナッチ147.5kgのジュニア日本新記録を樹立。ジャークで安田のトータル330kgに並び体重差で破るチャンスを狙ってジャーク182.5kgのジュニア日本新記録に挑戦したが失敗に終わった。

若手の成長振りが面白くなってきたクラスである。

<110kg級>

オリンピック100kg級代表の西本宣充(布施総合運動公園)の、3度目の優勝を疑う者はいなかった。しかし、結果的にはスナッチで高すぎるスタート重量160kgを、3度失敗して優勝戦線から早くも脱落してしまった。

ジャークでもやはり高いスタート202.5kgからの挑戦で、無謀ではと思われる試技展開を選んだが、こちらは成功し、いきなり日本新記録を樹立。第2、第3試技で210kgに挑み失敗に終わった。いくらか、無茶苦茶な試合運びと見られるフシがあったが、オリンピックの小手調べという狙いもあったようだ。とはいえ、一步間違えるとケガの落し穴に入る危険性があったといえよう。

西本の失格で、スナッチ160kgの大会タイ記録を挙げ、2番手の松下忠光(石和高校・教)に12.5kgの差をつけていた富樫嘉文(酒田北高校・教)が浮上。ジャークではスタートの180kg 1本成功のみに止ましたが、トータル340kgをマークし、ジャーク192.5kgを挙げトータル340kgの体重差逆転を狙って失敗した、松下の追撃をかわし4度目の優勝を遂げた。

<+110kg級>

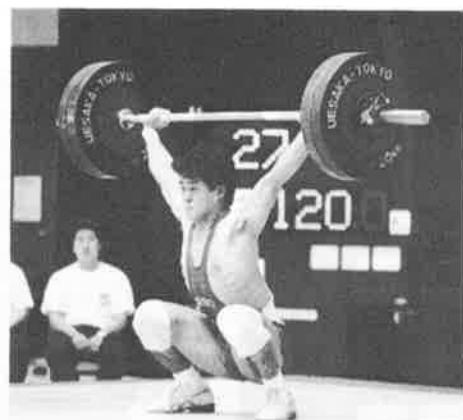
+110kg級は、溝口敏男(静岡県W.L.協会)の欠場で、興味が少々薄らぎ、奈良輝揚仁(香川中央高校・教)の不調で盛り上がりが欠けてしまったが、清野祐司(福島農蚕・職)がスナッチ150kg、ジャーク190kgからスタート、好記録を連想したが、いずれも失敗、失格に終わってしまった。

今大会の番狂わせの筆頭はこのクラスであった。馬渡清隆(日大)がスナッチ135kg、ジャーク185kg、トータル320kgの平凡な記録で、「棚からボタモチ」の幸運を掴み初優勝に輝いた。今年21才になる若手なので、来年は実力での優勝を目指し頑張ってもらいたい。

今回は初優勝者がかなり多く6名もいた。オリンピック代表が決まった直後の大会であったためであり、記録的にも全体的に低いのはやむをえないことである。しかし、全日本選手権大会である以上、できるだけ参加選手は、ベストコンディションで最高の試合をやって欲しいものだ。どうも見る側は事情が分かっていても欲張ったことを考えてしまうがとにかく初優勝者の中から一人でも多く、次の全日本で表彰台の真ん中に立つ選手が出て欲しいものだ。来年の全日本に期待したい。



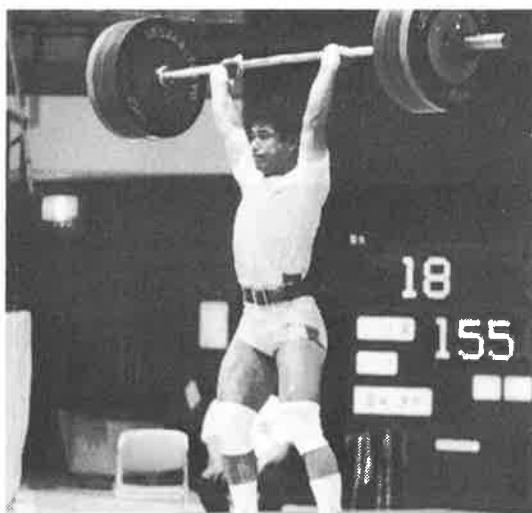
56kg級表彰式、中央、優勝渡辺(富士急)、左、2位池畠(大商大)、右、3位原(前橋育英高・教)。



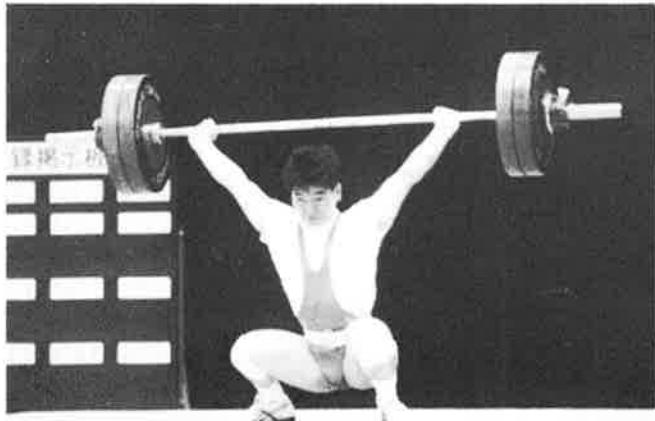
スナッチ120kgを、きれいなフォームで決めた60kg級優勝の佐久間(ゼビオ)。



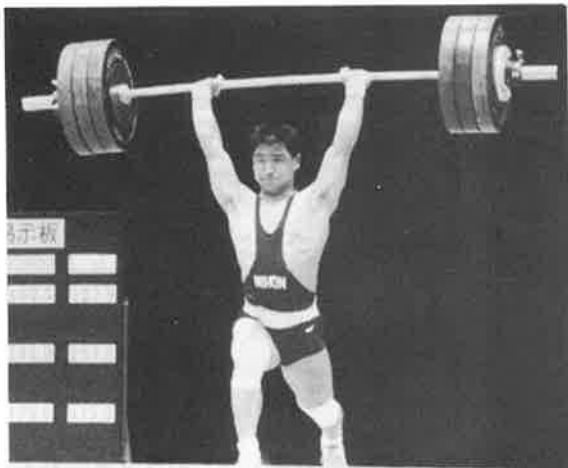
ジャーク155kgやや突きの不足と、上体の突っ込みすぎで失敗の感の、60kg級2位の橋(日大)。



ジャーク155kgを決め、パーフェクトでラストをまとめたが、竹田の初優勝を阻止することは出来なかった67.5kg級岩田(水島工高・教員)。



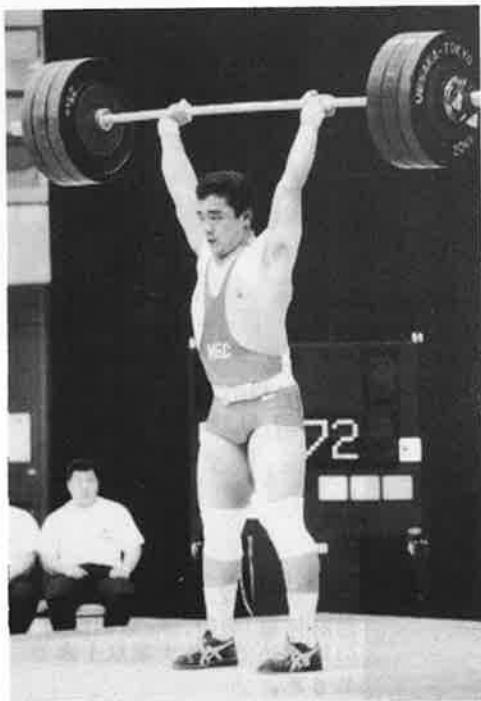
スナッチ132.5kgは、竹田(京都府体協)の67.5kg級初優勝の地固めになる大事な1本であった。



75kg級優勝水野(日大)、ジャーク185kg日本新記録を特別試技で樹立。まとまりの悪い試合ではあったが、最後を決めた。



ジャーク第1試技で170kgに失敗の後、同重量を成功、本人自身も物足りない記録での初優勝。来年に期待したい。



昨年度優勝時より、トータルで12.5kg低い記録で連勝した90kg級渡辺(NEC)のジャーク172.5kg。



地道に力をつけてきた西川(京都府体協)のスナッチ150kg。頭上にバーを支持、安定した立ち上がり姿勢で成功、100kg級初優勝への足場を固めた。安田(日大)、佐野(自衛隊体校)らの若手の成長が早く、100kg級は新たな楽しみが出てきた。

第52回全日本選手権大会

● 平成4年6月23・24日 ●千葉市ポートアリーナ

52kg級

順位	氏名	県名	所属	生年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	佐々木 徹	北海道	中央大	1973	51.70	80	90	100	×	100	110	115	90	115	205

56kg級

1 渡辺 博	山梨	富士急行	1967	54.05	110	115	120	×	130	135	140	115	140	255	
2 池畠 大	鹿児島	大商大	1970	55.55	105	110	112.5	×	135	140	142.5	110	142.5	252.5	
3 原 微群	馬	前橋育英教	1962	55.90	105	110	112.5	×	137.5	142.5	147.5	110	142.5	252.5	
4 伊禮 淳	香川	県体・振興	1967	55.30	105	110	110	×	125	125	130	105	130	235	
5 中西 正明	兵庫	兵庫県警	1961	55.95	105	107.5	107.5	×	125	127.5	130	107.5	127.5	235	
6 後藤 親哉	埼玉	自衛隊体学	1968	55.55	100	105	105	×	130	135	135	100	130	230	
7 守安 智之	岡山	体・ジ・カ	1968	55.60	100	102.5	102.5	×	122.5	125	127.5	100	125	225	
8 具志堅 刚	沖縄	日本大	1972	55.70	100	105	105	×	125	125	130	100	125	225	
9 岩瀬 康信	埼玉	日体大	1970	55.70	95	×	100	105	×	120	125	127.5	100	125	225
10 花城 正樹	香川	丸亀高教	1965	55.90	95	100	100	×	125	130	130	100	125	225	

60kg級

1 佐久間勝彦	福島	ゼビオ	1970	59.25	120	×	120	125	×	140	145	×	145	120	145	265
2 橋 典人	北海道	日本大	1972	59.90	112.5	115	×	115	×	145	155	×	155	112.5	145	257.5
3 森下 良平	大阪	信用金庫	1968	58.90	110	×	115	117.5	×	130	135	140	115	140	255	
4 新田 勝久	埼玉	自衛隊体学	1968	59.00	110	×	110	115	×	140	キ	—	110	140	250	

67.5kg級

1 竹田 貢	京都	体育協会	1965	66.10	127.5	×	127.5	132.5	150	160	×	160	×	132.5	150	282.5
2 岩田 洋介	岡山	水島工高教	1960	64.35	120	122.5	125	125	150	152.5	155	125	155	125	280	
3 磯村 賢一	山梨	牧丘町役場	1968	67.30	120	×	120	125	150	157.5	×	157.5	125	150	275	
4 富永 佳孝	徳島	日体大	1972	65.85	110	115	×	115	×	145	150	155	110	150	260	

75kg級

1 水野 英郎	千葉	日本大	1970	74.85	140	145	×	145	×	180	×	180	×	180	○	320 ○	
2 西澤 勝美	埼玉	自衛隊体学	1966	73.35	130	135	×	135	×	160	165	×	165	×	130	160	290
3 丸木 霞	岡山	日体大	1971	74.25	120	125	×	125	140	145	×	145	×	125	140	265	

水野 英郎 スナッチ 148.5× ジャーク 185 JR

82.5kg級

1 杉山 崇	静岡	WL協会	1969	82.40	135	140	145	170	×	170	182.5	×	145	170	315
2 小泉 秀一	山梨	石和高教	1970	79.55	130	135	×	135	165	170	×	170	135	170	305
3 森川 大輔	大阪	大商大	1971	80.80	125	130	135	160	165	170	135	170	170	305	
4 園部 直人	山形	体・振興	1969	81.35	130	135	×	135	165	170	177.5	×	130	170	300
5 鈴木 宗徹	福島	ゼビオ	1968	81.80	130	135	×	135	160	165	170	×	135	165	300

順位	氏名	県名	所属	生年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル			
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク				
6	村田 和謙	兵庫	明治大	1971	82.40	130	135	×	135	155	×	155	160	135	160	295	
7	加納 修	神奈川	フジタ工業	1960	82.05	120	×	120	125	×	165	170	×	172.5	120	172.5	292.5
8	斎藤 徹	山形	羽黒中.教	1960	76.05	130	×	130	135	×	150	160	×	160	130	150	280
9	松原 斎	大阪	大阪府警	1963	81.20	120	125	×	127.5	150	155	×	155	155	127.5	150	277.5

90kg級

1 清辺 浩幸	山梨	NEC山梨	1967	86.40	130	135	×	135	165	170	172.5	135	172.5	307.5		
2 稲垣 英二	埼玉	日本大	1972	85.15	130	×	130	135	×	167.5	172.5	×	175	130	175	305
3 篠田 英昭	千葉	日本大	1971	89.50	120	125	130	×	160	170	172.5	125	172.5	297.5		
4 白石 雅好	群馬	沐ノ瀬*	1967	86.85	120	130	135		150	160	165	×	135	160	295	

100kg級

1 西川 智之	京都	京都体協	1969	94.70	145	150	×	150	185	190	×	190	×	150	185	335
2 安田 英樹	京都	日本大	1971	99.70	140	×	140	145	180	185	190	×	145	185	330	
3 佐野 衛	埼玉	自衛隊体学	1973	94.80	140	147.5	×	147.5JJ	172.5	182.5	×	182.5	×	147.5JJ	172.5	320
4 松尾 謙督	東京	警視庁	1958	97.55	135	×	135	140	×	160	165	170	×	135	165	300
5 高村 韶隆	千葉	総合運動場	1969	94.85	135	×	135	135	160	160	×	160	135	160	295	
6 諸橋 弘樹	新潟	日本大	1971	99.50	125	×	125	125	170	177.5	×	180	×	125	170	295

安田 英樹 スナッチ 153 ×

110kg級

1 高櫻 隆文	山形	清田北高.教	1965	109.90	150	160	△	165	180	190	×	190	×	160	△	180	340
2 松下 忠光	山梨	石和高.教	1962	106.65	142.5	×	142.5	147.5	185	192.5	×	192.5	×	147.5	185	332.5	
3 大川 亮弘	大阪	大阪府警	1955	109.95	140	150	×	150	175	185	×	キ	140	175	315		
4 浅田 浩伸	石川	法政大	1970	103.50	135	140	×	140	170	170	×	170	175	135	170	305	
5 角田 一	埼玉	自衛隊体学	1969	100.65	135	140	×	140	165	170	×	170	135	165	300		
6 山田 一広	滋賀	いかだち食	1962	109.30	125	130	135	×	165	165	170		130	170	170	300	

+110kg級

1 馬鹿 清隆	青森	日本大	1971	112.00	130	135	140	×	180	×	180	185	135	185	320
2 生方 力	東京	警視庁	1963	115.70	130	135	×	135	180	180	×	192.5	130	180	310
3 加藤 浩樹	滋賀	木村機械工	1969	137.10	135	×	135	135	172.5	177.5	×	177.5	135	172.5	307.5
4 加藤 誠一	鳥取	日本大	1971	112.35	130	135	140	×	170	175	×	175	135	170	305
5 奈良輝陽仁	香川	香川中央.教	1969	113.70	125	130	×	130	160	キ	—	130	160	290	

BARCELONA OLYMPIC

唉いた！ 散った！
4年に1度の大祭典



選手村宿舎。中央の旗はウエイトリフティングチーム旗。



レフリーで参加の往年のゴールドメダリスト「ミスター ミヤケ、ジャパン！」審判紹介の一駒。



52kg級渡辺、メダルへの第一歩、スナッチ110kgのスタート。緊張か力み過ぎか失敗。



山梨県から地元応援団が駆せつけ、期待の星渡辺に声援を送ったが、無念の失格。

第25回バルセロナ オリンピック大会

観戦記

情熱の国スペインのバルセロナ市で、第25回オリンピック大会は、劇的な演出による弓矢での聖火の点火で、大会の火蓋が切られた。

ウエイトリフティング競技は、バルセロナ市の中央にあるスペイン産業体育館で、261名の選手が参加して、メダルが争われた。

ソウル五輪では、陸上のベン・ジョンソンやウエイトリフティングのブルガリアの金メダリスト2人のメダル剥脱など、5人がドーピング失格者となるショッキングな出来事があったが、今大会は大会前に参加選手にドーピング検査を課し、薬物禍を一掃しようというIWFの強い姿勢がみられクリーンなイメージを高める努力がなされた。

今大会では、ソウルの雪辱を期す日本勢の活躍はもとより、選手強化に禁止薬物を乱用してきた社会主義国の状況や、オリンピック2連覇を狙うトルコのスレイマノグル、そして世界一の力持ちの座を競うEUN(旧ソ連)の記録などに興味がもたらされた。

渡辺スタート重量で つまずく

<52kg級>

士別合宿から好調で、メダルの期待がかかったオリンピック初出場の渡辺博の大会第1号メダリスト成るか、世界選手権3連覇と最近負け知らずのイワノフ(BUL)の、初優勝成るかに注目の試合であった。

スナッチでは、110kgスタートのイワノフ、林(CHN)が115kgを挙げ、115kgからスタートして115kgに止まった張(CHN)の3人が同記録で並び、体重差で1位林、2位イワノフ、3位張の順となつた。日本の渡辺は、110kgからスタートを切ったが、1本目は前へ、2本目は後へと落として失敗3本目はキャッチしたものの肘が曲がり(プレスアウト)、2対1で無念の失格をしてしまつた。好調であっただけにスタートが悔やまれる。

ジャークでは、イワノフが1本目142.5kg、2本目147.5kg、3本目150kg(五輪タイ)と危なげなく成功、堂々の初優勝を遂げた。2位は林が140kg、142.5kg、147.5kgとパーカクト3本成功、トータル262.5kgで確保した。3位は140kgでケイレンを起しジャークにならなかつたミンチエフ(BUL)と、137.5kgを3本共失敗して失格した張に対し、ルーマニアのチハリアンが2本目に140kgを決め、トータル252.5kgで入つた。

Bグループで初出場の伊禮淳は、長期の合宿で調子が取り戻せず、予選会の10kg下からスタートをして、どうにかトータル222.5kgを出したが、動きに精彩を欠き9位に入るのが精一杯のようであ

最悪の状態ながらよく健闘した。

アジア勢上位独占！！

<56kg級>

昨年度世界選手権の覇者、全(KOR)のオリンピック初優勝が成るか期待の試合であった。

スナッチは、125kgからスタートした全が、2本目130kg、3本目132.5kg(五輪新)とパーカクト成功で、他を一步リードする好スタートとなつた。中国勢の世界記録保持者の劉は130kg(五輪新)を軽く成功したが、2本目135kg、3本目135.5kgの世界新は前に落とし失敗した。中国2人目の羅は125kgからスタート、軽く挙げ成功したかに見えたが、ダウンの際に頭上からバーベルを放つためか赤3つの思わぬ失敗、2本目に成功したもののはリズムを崩し、3本目の130kgは失敗に終わつた。

また、ヨーロッパ勢のトップリフター、スレイマノグル(TUR)は127.5kgの1本目で前に、2本目は後に落とし、3本目には勝負に出て130kgに増量したが、引き切れず失格してしまつた。

日本の佐久間勝彦は1本目115kg、2本目120kgと安定した試技で成功。3本目に122.5kgの日本新に挑んだが、セカンドブルから引き切れず失敗した。しかし、得意のスナッチで4位の好スタートであった。

ジャークは、中国の劉と羅が142.5kgから共にスタート、羅はパーカクト3本成功で152.5kgを決め、トータル277.5kg、劉は147.5kgを挙げ、トータルで同記録体重差に並び劉が2位に浮上した。優勝を狙う全は、全選手の試技終了後、単独で155kgからスタート、余裕の成功でトータル287.5kgをマーク、あっさり初優勝し、韓国ウエイトリフティング界初のオリンピック ゴールドメダリストとなつた。

佐久間は、1本目130kgに成功の後、2本目の135kgを立ちで失敗したが、3本目に同重量を気迫で決め、トータル255kgとし、Bグループのホンバータッセ(FRA)の260kgに敗れたが、堂々の5位入賞を果たした。

新田勝久はやや硬くなつたためか、スナッチの105kgを3本目によく成功させ、ジャークはいくらか元気を取り戻し140kgを成功させたものの、トータル245kgで13位に甘んじた。故障を早く治して頑張って欲しい。

“ポケットヘラクレス” 2連覇成る！！

<60kg級>

2連覇を狙うスレイマノグル(TUR)に対し、

ヨーロッパ選手権優勝のペシャロフ(B U L)が再び対決、スレイマノグルの巻返しが見物であった。

スナッチでは、ペシャロフは132.5kgからスタート、3本目に137.5kgを決め、まずまずの出来であった。一方スレイマノグルは、1本目で142.5kgを決めた後、2本目にいきなり153kgの世界新に挑戦し、2回共ハイブルで終わってしまい、場内は暫らく「アー」というため息が静まず、失敗しても王者の賞禄を見せつけてくれた。

3位は、熾烈な争いからレオニディス(G R E)が132.5kgで抜け出し、何(C H N)、テルジンスキー(B U L)、リー(P R K)が130kgの同記録体重差で続き、上位争いはジャークに持ち越された。

ジャークは、ペシャロフが162.5kgのスタートで予想外の差しの失敗、3本目に167.5kgをやっと挙げ、トータル305kgで優勝は遠退いてしまった。スレイマノグルは170kgから余裕のスタート、軽々と成功しトータル312.5kgであっさり2連覇を達成。その後、2本目に177.5kgを挙上、トータル320kgにまとめた。

3位争いは、162.5kgのスタートで終わったレオニディスに対し、プッシュジャークで165kgを決めた何、スタートから一気に10kg飛ばし165kgを決めたテルジンスキーらが、トータル295kgで並ぶ大接戦となり、体重差で何が銅メダルを獲得した。

日本の岩田洋介は、スナッチ、ジャーク共に2本づつ決め、ベテランらしい着実な試技でトータル270kg、11位と健闘した。初出場の佐藤和夫は、膝の故障でトレーニング不十分であったためか、スナッチ110kg、ジャーク140kgとやや低目のスタートであったが、2本づつ決めトータル260kgで20位に終わった。若手の佐藤にはこの経験を糧にしアトランタ オリンピックでの飛躍を期待したい

昨年度最優秀選手 ヨトフ敗退

<67.5kg級>

昨年の世界ランキングは比較的のレベルが高かつたが、今大会は300~305kgが入賞ライン、330kgがメダルラインと予想された。

スナッチは、ミリトシアン(E U N)が152.5kgでスタートし、2本目155kg(五輪タイ)を決めトップに立ち、次いで昨年の世界選手権の覇者ヨトフ(B U L)が150kg、ベテラン、ペーム(G E R)は3本成功し145kgで3位についた。

ジャークでは、ミリトシアン、ヨトフ共に177.5kgからスタート、ヨトフは1本目につまづいたがミリトシアンは2本目に182.5kgを決め、トータル337.5kgで優勝を固めた。スナッチで5kg離されたヨトフはジャークでも引き離されトータル327.5kgで銀メダルに甘んじた。ペームはスタートの175kgを挙げ、トータル320kgで銅メダルを決めた後、185kgに増量、ヨトフに逆転を挑んだが、クリーンで失敗した。

堀越典昭は、昨年の世界選手権で膝を痛めたが治療及び調整の結果徐々に回復し、5月末のジュ

ニア世界選手権からオリンピック大会に向けての目標計画については、補強の強さなどで90%程度の回復を見せ、今大会ではスナッチ130kg、ジャーク165kgを2本づつの成功で決め、トータル295kgの自己タイをマーク、怪物の片鱗を見せた。ジャークは3本目に170kgを挙げ、トータル300kgでさらに上位を狙ったが、クリーンのジャンプバックがやや大きく胸に受けることができず失敗。初出場ながら9位は立派、よくベストを尽くした。次期アトランタでの活躍が早くも楽しみである。

ララ体重差で負ける

<75kg級>

350kg台のメダル争い、340kg台の入賞ラインと非常にレベルの高い大接戦が予想された。

スナッチでは、1990年度世界チャンピオンのキム(P R K)が、いきなり162.5kgの高いスタートをしたが、1本目は引きで終わり、2本目は引き切れず前に落として失敗、あわや失格かと思わされハラハラしたが、3本目にどうにか成功、体重差で2位につけたスタンインホールに7.5kgの差をつけてトップに立った。3位以下も155kgでカサブ(E U N)、チェレボシュ(P O L)、ララ・ロドリゲス(C U B)が体重差で続く大接戦となつた。

ジャークでは、スタートの185kgで終わったチェレボシュが、まずメダル圏から脱落。スナッチでリードしていた金も195kgを2本失敗し、スタートの190kgに終わり、トータル352.5kgで優勝争いから脱落の銅メダルに止まった。優勝争いはカサブとララの追いつ追われつの激しいジャークの競り合いとなり、3本成功で202.5kgを挙げたララと同じ202.5kgを最後の試技で決めたカサブが、トータル357.5kgの同記録体重差でララを下し、金メダルを獲得。敗れたとはいえたララの戦い振りは立派であった。

水野英郎は、スナッチ135kg、ジャーク180kg(3本目に187.5kgの日本新を狙ったがクリーンで失敗)と、普段よりややスピードに精彩を欠き21位に終わった。士別合宿で恥骨部の皮膚が化膿し、ブル系統の補強が十分できず、万全の体調で臨めなかつたことが少々残念であり、長期合宿ではドクターとの疎通が重要であると痛感する。若いだけに次回アトランタ オリンピックで出し尽くせなかつた力を出し尽くして欲しい。

新鋭デイマス初優勝!

<82.5kg級>

昨年度ランキング1位のオラズラディエフ(E U N)が、段トツと思われていたがリザーブとなり、E U Nはサマドフ1人の出場となった。

スナッチは、1位ディマス(G R E、81.80kg)、2位サマドフ(E U N、81.85kg)、3位ライトチャエフ(B U L 81.85kg)の順となつたが、3人共同重量162.5kgからのスタートで、成功率も2本づつ、ベストも167.5kgに並ぶ大接戦の末であった。

4位も、82.5kg級で最軽量のチョン(PR K)が、シェミオン(POL)と共に165kgを挙げ、体重差で上位を占めるなど、優勝の行方は混沌とし、見る者にとっては面白い展開となつた。

ジャークは、まずライトChefが197.5kgからスタートして成功したが、202.5kgを2本失敗し、メダル争いから脱落の5位に終わった。200kgからスタートのシェミオンは、2本目に205kgを決め、トータル370kgとした後、優勝を賭け207.5kgに挑戦したが失敗、結果的には銀メダルを獲得した。200kgからスタートしたチョンは出だしのクリーンで失敗、体重最軽量にもかかわらず2本目に7.5kgアップの207.5kgに挑戦、トータル372.5kgで一気に優勝を狙ったがデッドリフトの失敗、3本目も同様の失敗に終わり、メダル圏から落ちてしまったが、完全な重量増加の作戦の失敗であった。

一躍金メダル争奪戦に加わった新鋭ディマスはサマドフと同じ202.5kgでスタート、1本目は共に成功トータル370kg、体重差でディマスが一步リードした。次いで両者5kgアップの207.5kgに挑戦、共に差しで失敗し、3本目も両者失敗、トータル370kg、体重差ながらディマス、シェミオン、サマドフの順で收まり、ディマスはギリシャに88年振りの金メダルをもたらした。

Bグループでも、トータル365kgを挙げ6位入賞勝者を出す程、A・Bグループの記録は10kg範囲でひしめいていた。期待の砂岡良治はスナッチ155kgのスタートでつまずき、2本目に決めたが3本目の160kgに失敗、苦しいスタートとなつた。

ジャークは195kgからスタート、1本目、2本目、3本目で、いずれも同重量を問題なくクリーンしたが、ジャークの差し挙げでリズムを崩し支持できず失敗、失格してしまった。選考会以降の短期間の調整で腰を治療しながら、スナッチ、ジャーク共に全盛期に近いコンディションに戻ってきたが本番で、本来のリズムに乗れなかつようである。くしくも優勝記録370kgは、本人の持つ日本記録と同記録(165.5+205.5=370)であったことが非常に心残りであった。

サマドフ銅メダル剥削脱!

サマドフは、表彰式で銅メダルの受け取りを拒否したため、IOCは「五輪憲章に反する行為」とし、メダルの剥脱と五輪からの即日追放を決定した。この理由には、負けた悔しさからとか気分が悪くなつたからとか、EUN团长ニコライ・ルサク氏から苦しい説明がされたが、実際は同僚のオラズラディエフ(トルクメニスタン共和国)の出場に関して、アレキセイエフコーチの処置に不満あってのことであった。しかし、この行為に対してはIWFF会長ショードル氏は、記者会見で「永久追放にする」と語った。

カキアチビリ大逆転

<90kg級>

旧ソ連のフラパティーが抜けた後、シルツォフ(EUN)400kg、カキアチビリ(EUN)400kg、ウォルスザニッキー(POL)395kg、チャカラフ(BUL)390kgら4人による、400kg台のメダル争い、入賞ライン355kg台が予測された。

スナッチでは、シルツォフが177.5kg、185kg、190kg(五輪新)と見事なパーカクト成功、2位の同僚カキアチビリも170kg、175kg、177.5kgとこれまたパーカクト成功。12.5kgもの大差をつけ優勝疑いなしの圧倒的なリードを奪った。次いでウォルスザニッキーが172.5kgで3位に続き、昨年の世界選手権2位のチャカラフは、いつもの力強さに欠け不調の170kg、キム(KOR)に体重差で負け、5位の苦しいスタートとなつた。

ジャークでは、まずチャカラフが207.5kg 1本のみ成功に終わり、メダル争いから脱落。スナッチで圧倒的リードのシルツォフは217.5kgからスタート、3本目に222.5kgを決め、トータル412.5kg(五輪タイ)でトップに立ち、優勝が決まったと誰しもが思ったが、カキアチビリの追撃は激しく、220kg、225kgと決め、トータル402.5kgで次に迫るウォルスザニッキーを抑えた後、3本目には一気に235kg(世界タイ)に増量、シルツォフに体重差逆転を賭け勝負を挑んできた。観衆が固唾を呑んで見守るなか、クリーンはやや重かったが、ジャークはブッシュジャークスタイルで見事に成功、大逆転に会場は大いに沸き、ウエイトリフティングの醍醐味を存分に味合ってくれた。

3位争いは金が1本目に210kgを決めた後、2本目は一気に220kgにアップ。デッドリフトもできずタイムオーバーの失敗、さらに3本目に222.5kgに増量やや無謀な勝負を賭けたがデッドリフトで失敗、トータル380kgでメダル争いから脱落。スタートで220kgを挙げ、トータル392.5kgをマークしていたウォルスザニッキーが銅メダルを獲得した。

西本 大健闘 8位入賞 日本新連発!

<100kg級>

メダル圏400kg台、入賞ライン375kg台と予想された。

スナッチではEUNの2人、タイムゾフとトレゴーボフがトップを争い、3本目に190kg(五輪タイ)を決めたトレゴーボフが、タイムゾフに5kgの差をつけ順調なスタートを切った。西本宣充は160kgからスタートし、2本目に165kg(日本新)を成功3本目の167.5kgは失敗したが10位につけた。

ジャークでは、215kgからスタートしたトレゴーボフが220kgを着実に決め、トータル410kgで優勝の色を濃くした。それに対し追い上げるタイムゾフは1本目に217.5kgを挙げ、2位を確定した後、一気に227.5kgと10kg増量、トータル412.5kgで大逆転を狙つたが、クリーンで立てず優勝の野望は果たせなかつた。3位は3本目に215kgを決めトータル400kgをマークした、マラクが堂々の銅メダル獲得を果たした。

また4年前にドーピング失格となり、今回復活を賭けたサニー(HUN)は、最後の試技215kgで4位入賞を狙ったが、クリーンが重くジャークの突き上げならず失敗に終わった。

西本は1本目に200kg、2本目207.5kg(日本新)に成功、3本目にさらに日本人リフター前人未到の212.5kgに挑戦したがクリーンで失敗した。全日本選手権で痛めた手首の回復が十分でなかったようであったが、トータル372.5kgの日本新(日本の全階級中最高重量)で、8位入賞を果たしたことは立派であった。今後は重量級の第一人者として2年後の広島のアジア大会、4年後のアトランタオリンピックでの活躍に期待したい。

地獄から更生ったウェラー 感涙の金メダル!

<110kg級>

昨年の世界チャンピオン、アコエフ(EUN)、2位のウェラー(GER)、89年度世界チャンピオン、ボテフ(BUL)、さらに90年度100kg級チャンピオン、ブラッド(ROM)の4人による興味あるメダル争いとなつた。

スナッチでは、アコエフが190kgからスタート、3本目に195kgを決め、ウェラーと同体重ながら2.5kgの差をつけリードした。次いでブラッド、ボテフが190kgで続いた。

ジャークでは、スタート時点でのウェラー225kg、アコエフ230kg成功、トータルで7.5kgの差で一時アコエフの逃げ切り優勝なるかと思われたが、2本目にアコエフが235kgに成功、ウェラーも10kg飛ばし235kgを成功させ差は再び2.5kgに縮まり、3本目の237.5kgにアコエフが失敗するやいなや、ウェラーは5kg増量の240kgに挑戦、鮮やかに成功、逆転優勝を遂げた。

ウェラーは、2年前に交通事故で両手両足を骨折、頭部を強打するなど瀕死の重傷を負い、再起が危ぶまれ、同乗の恋人も亡くし、病院で悶々とした日々を過ごしたが、元ウェイトリフターの父の励ましもあり、昨年の春トレーニングを再開できるようになり、病んでいた心と体が回復、今回の金メダル獲得に至った。まさに地獄からのカムバックであり、表彰台でのウェラーの涙は、人生最高の感動によるものであった。

3位には、ジャーク227.5kgを挙げられなかったブラッドを抑え、スナッチ190kg、ジャーク227.5kgと、自己記録に遠く及ばなかったボテフが、トータル417.5kgの低調な記録で入った。また、昨年度世界3位の全(KOR)は、ジャークのスタート210kgを3本失敗して失格した。

クルロビッチ楽々2連勝

<+110kg級>

30才台のベテラン選手がメダルを争う最終日、EUNのタラネンコ(ジャーク266kgの世界記録保持者、36才)とクルロビッチ(現世界チャンピオン、

スナッチ216kg、トータル475kgの世界記録保持者32才)の2人に対し、ネルリンガー(GER)がどこまで迫るか、世界一の力くらべに館内は競技開始前からざわめき沸いていた。

スナッチでは、クルロビッチが195kg、200kg、205kgと難なく軽く決めたのに対し、タラネンコは187.5kg、ネルリンガーは180kgともう一步振るわず、クルロビッチは先輩タラネンコに17.5kgの大差をつけ、余裕のリードとなつた。

クルロビッチは、ジャークでも237.5kg、245kgと順調に決め、トータル450kgで優勝を確実にした後、3本目に250kgに挑戦した。ところが、タイムオーバーで失敗したにもかかわらず、レフリーがブザーを鳴らさなかつたため拳上してしまつた。もちろん後に失敗判定が出たが……。

ジャーク得意のタラネンコは、右膝をスナッチの1本目で痛めたようで、ジャークは手堅く2本目に237.5kgを挙げるに止まり、トータル427.5kgと不発に終わった。3位となったネルリンガーは3本目に247.5kgに挑戦、ジャーク1位とタラネンコに逆転の銀メダルを狙つたが、波に乗れず失敗、EUNの2人の一角に食い込むことはできなかつた。

この試合では、試技変更ミス(試技変更回数、ファイナルコール)など、コーチによるミスで抗議、中断、さらにタイムオーバーなど審判ミスを含めスッキリしない試合展開で終わつてしまい、観衆は後味の悪さからただため息……であった。

本大会を顧みると、モントリオールオリンピック以降台頭し、旧ソ連の牙城を崩してきたブルガリアチームは、52kg級のイワノフの金メダルが1個、60、67.5kg級で銀2個。そして重量級110kgのボテフの銅1個と、予想外に選手の精彩を欠き、ソウルのドーピングによるペナルティーの影響以来、全体的な記録の低下が目についた。

旧ソ連(EUN)は、いくつかの共和国独立で、戦力の低下が囁かれていたが、蓋を開けたら確かに記録的にはクルロビッチなど自己の五輪記録に届かずなど低調であったが、勝敗に撤し、ブルガリアなど他の社会主义諸国との退潮も手伝い、5階級を制覇、底力を見せつけた。

日本勢は、56kg級の佐久間勝彦、100kg級の西本宣充2人のみが入賞、寂しい結果となつてしまつたが、フレッシュな堀越典昭やベテランの岩田洋介らの堂々とした戦いぶりなど、さわやかさを残してくれた部分もある。とはいえ、やはり全体的にはソウル大会に引き続きメダル無しの惨敗に終わつてしまつたことは残念であった。

今後、アトランタオリンピックに向けて、指導陣は是非この結果をしつかり分析し、新たなスタートをして欲しい。

せきぐちおさむ



52kg級金(P R K)、ジャーク140kg腰碎け
「アリヤー」の感じの失敗。



52kg級イワノフ(B U L)、ジャーク147.5 kg成功。優勝が確定した訳ではないが、優勝への確信のガツツポーズ。



今大会最初で最後のブルガリア リフターの金メダル獲得の瞬間。イワノフのジャーク150kg。



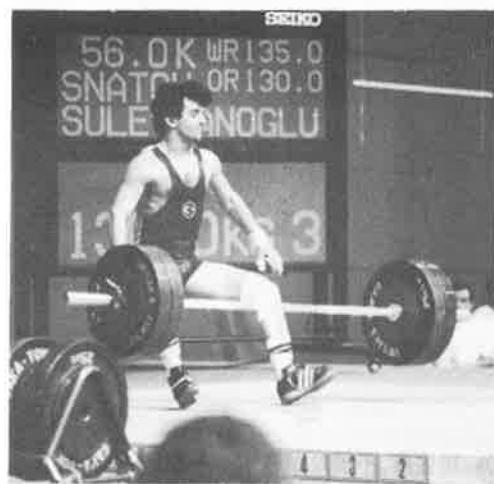
52kg級表彰式。中央、優勝
イワノフ(B U L)、左、2
位林(C H N)、右、3位チ
ハリアン(R OM)。

立派な応援幕が、56kg級の
佐久間のために用意された。





56kg級佐久間、見事スナッチ120kgの自己新を挙上。トータル255kgで5位入賞の健闘。



トルコのもう一人のスレイマノグル(56kg級)メダルを賭け、スナッチ130kgに挑戦したが失敗、失格に終わる。



56kg級全(KOR)、第1試技ジャーク155kgを軽くクリヤー。韓国初の金メダリスト誕生。



闊いの雰囲気を感じさせない、楽勝優勝の全、悠然と観衆の歓呼に応える。



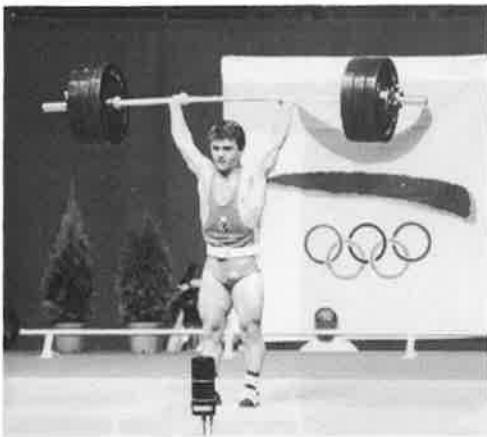
56kg級表彰式。中央、優勝全(KOR)、左、2位劉(CHN)、右3位羅(CHN)。



60kg級佐藤、不調ながらジャーク145kgの自己タイを挙上、よく健闘したが20位に終わる。



連続3回目のオリンピック出場は、11位と今回も惜しくも10位以内入賞を果たせなかつたかった60kg級岩田のジャーク150kg。



60kg級スレイマノグル(TUR)、いつも容易にジャーク177.5kgを挙上、2連覇を達成。



67.5kg級ミリトシアン(EUN)、スナッチ155kgのオリンピックタイをマーク、他を一步引き離し跳び上がって喜ぶ。



ケガを克服し、自己タイ記録を挙げ、9位に入る健闘を見せた67.5kg級の堀越。



ジャーク182.5kgを挙げ、トータルで2位のヨトフ(BUL)に10kgの差をつけて優勝した67.5kg級のミリトシアン(EUN)。



75kg級3位キム(DPR)、スナッチ162.5kgに挑戦、ブルで手が離れ後方に飛ばされた瞬間。



檜舞台で本領が発揮できなかつた75kg級の水野。スナッチの挽回を期し積極的にジャークに挑んだが……。



75kg級ララ(CUB)、ジャーク202.5kg成功しガツツポーズに入る寸前。カサブに敗れたとはいは、その健闘は讃えられた。



水野選手の家族も応援のため観戦。真心のこもった応援旗の祈りも空しく、10位以内入賞はならなかった。



あるいはの期待の82.5kg級の砂岡、波に乘れず失格となった。



82.5kg級優勝のディマス(GRE)、ブッシュジャークで202.5kgに成功、コーチ陣の感動の声援が聞こえてきそう。



大試合出場前とはとても思えないリラックスした顔の100kg級の西本。志村先生のマッサージのお陰で好成績！



鳥取から吉田県協会会長、知事も大挙応援に駆けつけた。必勝の帽子をかぶる応援団に西本は見事応え大活躍の8位入賞を果たした。



100kg級ジャーク207.5kgの日本新、ファーストプルの姿勢も力強い西本。



スナッチ185kgに成功、大喜びのビッグジャンプ！
100kg級のマラク(POL)。



100kg級表彰式。中央、優勝トレゴーボフ(EUN)、左、2位タイマゾフ(EUN)、右、3位マラク(POL)。マラクがうれしさのあまり大はしゃぎ、表彰台はハッピーな雰囲気で一杯。



110kg級優勝ウェラー(G E R)
大逆転の240kg。体が捻れたま
ま拳上、ドラマチックなぎりぎ
りの大逆転であった。



+110kg級クルロビッチ(E U N)
スナッチ第1試技195kg安定した
ゆとりの成功。クルロビッチは
60kg級のスレイマノグル(T U R)
と共に2連覇を成し遂げた。

SEE YOU AGAIN
IN ATLANTA !



第25回バルセロナ・オリンピック大会

● 1992年7月26日~8月4日 ● スペイン バルセロナ

52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	IVANOV, IVAN IVANOV	BUL	51.80	110	115	117.5×	142.5	147.5	150 △	115	150 △	265
2	LIN,QISHENG	CHN	51.60	110	115	117.5×	140	142.5×	147.5	115	147.5	262.5
3	CIHAREAN,TRAIAN IOACHIM	ROM	51.75	112.5×	112.5	117.5×	130 ×	140	142.5×	112.5	140	252.5
4	KO,KWANG-KU	KOR	51.85	107.5	112.5	115 ×	135	140	142.5×	112.5	140	252.5
5	MUTLU,HALIL	TUR	51.75	105	110	112.5	135	137.5×	137.5×	112.5	135	247.5
6	GIL,NAM SU	PRK	51.95	100	105	105 ×	130	135	137.5×	100	135	235
7	FUENYES RODRIGUEZ,HUMBERTO	VEN	51.65	100	105	105 ×	125	130	135 ×	100	130	230
8	IBANEZ PUIG,JOSE ANDRES	ESP	51.85	95	100	102.5×	122.5	127.5	130 ×	100	127.5	227.5
9	伊藤 淳	JPN	51.80	95	100	102.5×	115	122.5×	122.5	100	122.5	222.5
10	ADISEKAR,BADA HALA 源辺 博	IND	51.80	92.5	97.5	100 ×	120	125 ×	125	97.5	125	222.5
		JPN	51.50	110 ×	110 ×	110 ×	130 ×	キ	—	0	0	0

56kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	CHUN, BYUNG-KHAN	KOR	55.90	125	130	132.5○	155	170 ×	170 ×	132.5○	155	267.5
2	LIU,SHOUBIN	CHN	55.60	130	135 ×	135 ×	142.5	147.5	152.5×	130	147.5	277.5
3	LUO,JIANMING	CHN	55.65	125 ×	125	130 ×	142.5	147.5	152.5	125	152.5	277.5
4	FOMBERTASSE,LAURENT	FRA	55.85	105	110	112.5	142.5	147.5×	147.5	112.5	147.5	260
5	佐久間清彦	JPN	55.40	115	120	122.5×	130	135 ×	135	120	135	255
6	KARCZAG,TIBOR	HUN	55.65	112.5	115	117.5×	140	145 ×	145 ×	115	140	255
7	KIM,YONG CHOL	PRK	55.75	105	110	112.5×	140	145 ×	145 ×	110	145	255
8	GORZELNIAK,MAREK	POL	55.80	110	115	117.5×	140	145 ×	145 ×	115	140	255
9	LENART,FERENC	HUN	55.95	110	112.5	115 ×	130	135	140	112.5	140	252.5
10	SODIKIN,SODIKIN	INA	55.65	110	115 ×	115 ×	140	145 ×	145 ×	110	140	250
13	新田 勝久	JPN	55.75	105 ×	105 ×	105	135	140	142.5×	105	140	245

60kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	SULEYMANOGLU,NAIM	TUR	59.90	142.5	153 ×	153 ×	170	177.5	—	142.5	177.5	320
2	PESHALOV,NIKOLAI SLAVEV	BUL	59.35	132.5	137.5×	137.5	162.5×	162.5	167.5	137.5	167.5	305
3	HE,YINGQIANG	CHN	59.30	127.5	130	132.5×	160	165	170 ×	130	165	295
4	TERZILISKI,NENO STOYANOV	BUL	59.70	125	130 ×	130	155	165	167.5 ×	130	165	295
5	LEONIDIS,VALEROS	GRE	59.80	125	130	132.5	162.5	167.5 ×	167.5 ×	132.5	162.5	295
6	RO,HYON IL	PRK	59.70	122.5	127.5 ×	127.5	155	160 ×	160	127.5	160	287.5
7	CZANKA,ATTILA	HUN	59.65	127.5	132.5 ×	132.5 ×	157.5	160 ×	160 ×	127.5	157.5	285
8	LI,JAЕ SUN	PRK	59.75	125	130	132.5 ×	150	155 ×	155 ×	130	150	280
9	STEPHEN,MARCUS	SAM	59.85	112.5	117.5	122.5 ×	147.5	152.5	157.5 ×	117.5	157.5	275
10	TOROCZCOI,PAUL BELLA	ROM	59.90	120 ×	120	125 ×	150	155	160 ×	120	155	275
11	岩田 洋介	JPN	59.75	115	120	122.5 ×	145	150 ×	150	120	150	270
20	佐藤 和夫	JPN	59.80	110	115	120 ×	140	145	150 ×	115	145	260

67.5kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	MILITOSIAN,ISRAEL	EUN	67.25	152.5	155 △	157.5×	177.5	182.5	187.5×	155 △	182.5	337.5
2	YOTIOV,YOTIO VASSILEV	BUL	67.05	145	150	152.5×	177.5×	177.5	182.5×	150	177.5	327.5
3	BEHM,ANDREAS	GER	67.25	135	140	145	175	185 ×	185 ×	145	175	320
4	YAHIAOUI,ABDELMAHANE	ALG	67.50	135	140	142.5×	170	175 ×	175	140	175	315
5	GRONMAN,JOUNI JOHANNES	FIN	67.40	135 ×	135	140 ×	165	170	172.5 ×	135	170	305
6	ACEVEDO TABARES,EYNE	COL	66.75	125	130 ×	130	165	170	175 ×	130	170	300
7	IM,SANG HO	PRK	67.25	135	140 ×	140 ×	160	165	167.5 ×	135	165	300
8	MORAE,TIMOTHY LENARD	USA	67.25	127.5	132.5	135	157.5	162.5	165 ×	135	162.5	297.5
9	堀越 典啓	JPN	67.30	125	130	132.5 ×	160	165	170 ×	130	165	295
10	PATAO,VERNON	USA	66.65	127.5	132.5	135 ×	157.5	162.5 ×	162.5 ×	132.5	157.5	290

75kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	KASSAPU,FEDOR	EUN	74.50	155	160 ×	160 ×	200 ×	200	202.5	155	202.5	357.5
2	LARA RODRIGUEZ,PABLO	CUB	74.75	155	160 ×	160 ×	195	200	202.5	155	202.5	357.5
3	KIM,MYONG NAM	PRK	74.05	162.5 ×	162.5 ×	162.5	190	195 ×	195 ×	162.5	190	352.5
4	KOZLOWKI,ANDRZEJ	POL	74.80	155 ×	155	160	192.5	197.5 ×	197.5 ×	160	192.5	352.5
5	STEINHOFEL,INGO	GER	74.30	155	160 ×	160 ×	185	192.5	197.5 ×	155	192.5	347.5
6	MORA LICEA,RAUL	CUB	74.80	145	150 ×	150	190	195	200 ×	150	195	345
7	CHLEBOSZ,WŁODZIMIERZ	POL	74.70	150	155	157.5 ×	185	190 ×	190 ×	155	185	340

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル					
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク						
8	LU,GANG	CHN	74.40	150	×	150	×	150		185	190	×	190	×	150	185	335
9	LIN,WENSHENG	CHN	74.10	145		150	×	150	×	187.5	195	×	195	×	145	187.5	332.5
10	SADIKHOV,OLEG	ISR	74.20	152.5		157.5	×	157.5	×	180	190	×	190	×	152.5	180	332.5
21	水野 英郎	JPN	74.00	137.5		142.5	×	142.5	×	175	180		187.5	×	137.5	180	317.5

82.5kg級

1	DIMAS,PYRRROS	GRE	81.80	162.5	167.5	×	167.5	202.5	207.5	×	207.5	×	167.5	202.5	370
2	SIEMION,KRYSZTOF	POL	81.80	160	165		167.5	200	205		207.5	×	165	205	370
3	SAMADOV,IBRAMIM	EUN	81.85	162.5	167.5	170	×	202.5	207.5	×	207.5	×	167.5	202.5	370
4	CHON,CHOL HO	PRK	78.60	160	×	160	165	200	207.5	×	207.5	×	165	200	365
5	BRATOITCHEV,PLAMEN IGNATOV	BUL	81.85	162.5	167.5	167.5	197.5	202.5	207.5	×	202.5	167.5	197.5	202.5	365
6	ELIAS OCANA,LINO EMERIDO	CUB	82.40	160	×	160	165	197.5	202.5	207.5	202.5	205	160	205	365
7	HUSTER,MARC	GER	80.90	160	165	×	165	195	202.5	207.5	202.5	160	202.5	202.5	362.5
8	HEREDIA LEDEA,JOSE ERNESTO	CUB	82.45	160	165	165	195	197.5	202.5	207.5	202.5	165	197.5	202.5	362.5
9	LI,YUNNAN	CHN	81.70	160	165	165	165	195	195	200	200	160	195	195	355
10	COFALIK,ANDRZEJ	POL	80.45	160	×	160	165	190	195	195	195	160	190	190	350
	砂岡 良治	JPN	81.50	155	×	155	160	195	195	195	195	155	0	0	0

90kg級

1	KAKHIDASHVILI,KAKHI	EUN	89.25	170	175	177.5		220	225	△	235	WR	177.5	235	WR	412.5△
2	SYRTSOV,SERGEI	EUN	89.45	177.5	185	190	○	217.5	222.5	×	222.5		190	○	222.5	412.5△
3	WOLCZANIECKI,SERGIUSZ	POL	89.35	172.5	177.5	177.5	×	220	232.5	×	232.5	×	172.5	220		392.5
4	KIM,BYUNG-CHAN	KOR	87.95	170	175	175	×	210	222.5	×	222.5	×	170	210		380
5	TCHAKAROV,IVAN KHRISTOV	BUL	89.25	170	×	170	175	207.5	212.5	×	212.5	×	170	207.5		377.5
6	LARA RODRIGUEZ,EMILIO	CUB	88.60	165	×	165	172.5	200	210	212.5	×	165	210			375
7	MAY,PETER PETER	GBR	89.45	155	×	155	160	190	195	×	195	195	160	195		355
8	GOODMAN,HARVEY JOHN	AUS	89.40	152.5	157.5	157.5	192.5	197.5	197.5	197.5	197.5	157.5	192.5	192.5		350
9	PLANCON,CEDRIC	FRA	84.70	152.5	157.5	160	×	182.5	187.5	192.5	192.5	157.5	187.5	187.5		345
10	DUDAS,ISTVAN	HUN	89.90	152.5	157.5	157.5	180	187.5	187.5	187.5	187.5	157.5	187.5	187.5		345

100kg級

1	TREGOUBOU,VICTOR	EUN	97.25	117.5	185	190	△	215	220	×	220		190	△	220	410
2	TAIMAZOV,TIMOUR	EUN	99.80	180	185	190	×	217.5	227.5	×	227.5	×	185	217.5		402.5
3	MALAK,WALDEMAR	POL	99.55	180	182.5	185		212.5	215	×	215		185	215		400
4	TOURNEFIER,FRANCIS	FRA	99.25	170	×	170	172.5	217.5	222.5	×	222.5	222.5	170	217.5		387.5
5	STEFANOV,PETAR IVANOV	BUL	98.85	165	×	165	170	205	210	212.5	212.5	170	210			380
6	DANISOV,ANDREY	ISR	95.40	170	175	177.5	×	202.5	215	×	210	×	175	202.5		377.5
7	GUSE,UDO	GER	99.05	162.5	167.5	170	×	205	210	212.5	212.5	167.5	210			377.5
8	西本 宣充	JPN	98.00	160	165	167.5	×	200	207.5	212.5	212.5	165	207.5			372.5
9	KADIR,NAZAR	IRO	95.05	160	167.5	170		200	205	×	205	×	170	200		370
10	RAZAEI,BIJAN	SWE	97.90										165	200		365

110kg級

1	WELLER,RONNY	GER	109.40	185	190	192.5		225	235	240		192.5	240		432.5
2	AKOEV,ARTOUR	EUN	109.40	190	195	195	×	230	235	237.5	×	195	235		430
3	BOIEV,SIEFAN	BUL	108.50	185	190	190	×	227.5	237.5	237.5	×	190	227.5		417.5
4	VLAD,NICU	ROM	103.10	185	×	185	190	215	227.5	227.5	227.5	190	215		405
5	OSUCH,DARIUSZ	POL	108.05									175	222.5		397.5
6	SEIPELT,FRANK	GER	109.75	162.5	170	172.5	×	205	212.5	220		170	220		390
7	VILLAVICENCIA CABRERA,FLAVIO	CUB	108.40									170	217.5		387.5
8	SALTISDOS,PAVLOS	GRE	108.95	170	175	177.5	×	210	210	215	×	175	210		385
9	DEKAJ,DEDE	ALB	109.75									162.5	217.5		380
10	OBERBURGER,NORBERTO	ITA	109.25									175	200		375

+110kg級

1	KOURLOVITCH,ALEXANDRE	EUR	131.05	195	200	205		237.5	245	250	×	205	245		450
2	TARANENKO,LEONID	EUR	144.10	187.5	×	187.5	—	232.5	237.5	242.5	×	187.5	237.5		425
3	NERLINGER,MANFRED	GER	149.75	180	185	185	×	232.5	242.5	242.5	×	180	232.5		412.5
4	AGUERO SHELL,ERNESTO	CUB	163.35	175	182.5	187.5	×	230	240	240	×	182.5	230		412.5
5	MITEV,MITKO RAIKOV	BUL	127.35									180	220		400
6	ZUBRICKY,JIRI	TCH	156.50	170	×	170	177.5	222.5	227.5	227.5	227.5	170	222.5		392.5
7	ARSLAN,ERDINC	TUR	128.30	170	175	175	×	220	225	225	225	170	220		390
8	MARTINEZ,MARIO	USA	141.45									170	215		385
9	ZAWIEJA,MARTIN	GER	128.35	170	175	175	×	210	215	215	215	170	210		380
10	HENRY,MARK J.	USA	166.40									165	212.5		377.5

第39回全国高等学校総合体育大会

団体、兵庫県舞子高校初優勝！ 青木全階級中最高の307.5kg！

台風上陸の心配のなか、平成4年度インターハイは「夢きらめいて宮崎の空の下」の大会スローガンのもとに、南国宮崎県佐土原中央体育館に於いて行なわれた。

台風の影響による大会の中止、延期等のうわさも流れたが、現実に2日目には上陸した台風10号の暴風雨によって、アップ場が一部破損、午前中の試合を午後に繰り下げ、検量時間を1時間30分に短縮する変則ルールに変えるなど、大幅な競技日程の変更がなされ、文字どおり“大荒れ”的な大会となつた。

<52kg級>

スナッチでは、春の選抜の雪辱を晴らすべく尾田憲司(岐阜・土岐商業)が、第3試技で87.5kgをキッチリ決め、選抜チャンピオンの鈴木和弘(宮城・県農業)を2.5kgリードした。しかし、ジャークを得意とする鈴木は107.5kgからスタートし、2試技目の110kgを失敗した後、同重量を3試技目にしつかりと決め、トータル195kgで優勝に輝いた。

尾田は、優勝を賭け第3試技で107.5kgに挑んだが、惜しくも差しで失敗。選抜に続きまたもや2位となつた。3位には、2年生ながら6試技成功パーフェクト試合の宮川一宏(徳島・鳴門工業)が入つた。地元宮崎県の小林高校の永友 清は、ジャーク種目2位(107.5kg)、トータル185kgで堂々の5位入賞を果たした。

<56kg級>

56kg級スナッチ、60kg級スナッチ、ジャーク、トータルの中學記録保持者で、昨年のインターハイでは入賞を期待されながらスナッチで失格、春の選抜でも6位と予想外に振わずじまいの上原大介(広島・広島電大附)が、なんとか“高校チャンピオン”のタイトル手中に收めんものと今大会に挑んだ。スナッチの1試技目で失敗、セコンド陣をヒヤッとしたが、結果はスナッチ95kg、ジャーク115kg、トータル210kgで2位に7.5kgの差をつけ、念願の優勝を遂げた。

2位には地元の重山康彦(宮崎・小林)が入り、

会場をおおいに沸かせた。3位、4位はトータル200kg、同記録体重差で徳島県鳴門工業2年生の富永憲志に軍配が上がり、和田 実(兵庫・舞子)は4位となつた。また、選抜チャンピオンの新垣和也(沖縄・南部工業)は、成功率が悪く精彩を欠き5位に甘んじた。

会場内は、競技開始前から座って観戦しているだけで汗が出てくるほどの猛暑であったが、近づく台風の影響によるものであった。

<60kg級>

スナッチで、スタート重量を3試技目にからうじて成功させた兼島 豊(沖縄・沖縄尚学)が、それでも単独トップに立つた。しかし、苦手のジャークでスタート1本どまりとなり、トータルを伸ばすことができず7位(4~7位まで同記録体重差)に甘んじてしまった。

優勝は、スナッチ100kg、ジャーク125kg、トータル225kgで角谷昌史(石川・珠洲実業)、2位はトータル220kgで渡辺裕斗(北海道・夕張緑が丘実)、3位にはジャークでいまひとつ力を出し切れなかった感の、中村力矢(埼玉・埼玉栄)がトータル217.5kgで入つた。

選抜チャンピオンの藤田健太郎(兵庫・舞子)はスナッチ、ジャークともにスタート重量どまりとなり、期待外れの4位に甘んじてしまった。

<67.5kg級>

スナッチ3試技目に112.5kgをキッチリ決め、トップに立った選抜チャンピオンの升田友也(鳥取・鳥取西工業)が、ジャークでは2試技、3試技目をクリーンで失敗し、スタート重量どまりとなり完全優勝はならなかつたが、トータル242.5kgで優勝者となつた。

2位は、選抜で成功率に泣き4位に甘んじた佐藤公治(愛知・愛工大名電)がトータル240kgで入つた。インターハイ3年連続出場、昨年度8位、選抜2位の清水 豊(京都・西宇治)は、今回は優勝を狙つての出場であったが成功率が悪く、力が出し切れず3位に終わった。

<75kg級>

昨年度7位、選抜チャンピオンの増井啓治(徳島・徳島工業)が、スナッチ120kg、ジャーク140kg、トータル260kgで、2位に15kgの差をつけ堂々の優勝を果たした。

2位は、パーフェクト試合でトータル245kgをマークした藤田昌士(香川・多度津工業)が入り、3位はスナッチでは8位と出遅れたものの、得意のジャークで挽回、一気に順位を上げた菅野太作(栃木・小山)がトータル240kgで食い込んだ。

<82.5kg級>

選抜大会75kg級2位の上野栄介(兵庫・舞子)が1階級上げての出場、トータル255kgで優勝。2位3位はトータル245kgの同記録体重差で、2位小川哲也(千葉・布佐)、3位古谷和洋(山梨・日川)の順となった。

<90kg級>

72kg級スナッチ、ジャーク、トータルの中學記録保持者、昨年度インターハイ82.5kg級2位、選抜大会82.5kg級チャンピオンの優勝候補筆頭の木村芳広(北海道・士別商業)が、成功率はいまひとつであったが、2位に17.5kgの大差をつけて楽勝の優勝。

2位は安藤優聰(香川・多度津工業)トータル247.5kg。3位、4位は240kgの同記録体重差で、3位に選抜5位の南昭(大阪・大阪工大附)、選抜2位の橋隆寿(石川・金沢)は4位となった。

<100kg級>

優勝はトータル267.5kgの立花信生(福岡・八幡中央)であったが、2年生ながらスナッチ115kg(1位)、ジャーク145kg(2位)、トータル260kgで2位となった西村博忠(岡山・水島工業)に注目が集まつた。

3位は村上健作(宮城・村田)がトータル257.5kgで入った。

<+100kg級>

今大会のハイライトであったのがこのクラス。昨年の王者、選抜大会110kg級優勝の青木延明(栃木・小山)と、昨年の+100kg級4位、選抜大会で+110kg級スナッチ126kg、ジャーク155.5kg、トータル280kgの高校新記録を樹立、さらに4月のJOC杯でもジャーク157.5kg、トータル282.5kgと高校新記録を更新した小松政志(山梨・日大明誠)の一騎打ちとなった。

スナッチは、スタート重量青木122.5kg、小松125kgを両者とも難なく成功。2試技目からは早くも両者の高校記録更新合戦となり、観衆は期待を持

って試技を見守った。

2試技目は青木127.5kg、小松130kg。3試技目青木132.5kg、小松135kgと、失敗なしで抜きつ抜かれつの中、次々と高校記録が塗替えられ、両選手とも余裕すら感じられ、むしろ緊張していたのは観衆の方のようであった。

スナッチで2.5kgリードを奪った小松は、いきなり高校新の160kgからスタート。これに対し青木も高校新の162.5kgのスタート。これまた両者余裕で成功し、ともにトータル295kgの同記録に並んだが、体重差で青木が有利となつた。

会場の観衆は、高校生最強の男の行方に、固唾を飲み両選手の一挙手一投足に注目、静寂でピンと張り詰めた緊張感が漂い続けた。

両者とも2試技目は7.5kgづつ増量、それぞれ成功。小松は追い詰められ3試技目の170kgを成功させ優勝に望みを託したが、クリーンでニータッチの反則を採られ、デッドヒートに終止符が打たれた。

優勝が決定した後、青木は最後の試技でさらに5kg増量、175kgに挑戦。これもビシャリと決め、従来の記録を大幅に上回るトータル307.5kgの高校新記録を樹立して、インターハイ2階級制覇の連勝を成し遂げた。

3位には、昨年惜しくもスナッチで失格してしまった東江博昭(沖縄・南部工業)が、2年生ながらトータル267.5kgで入賞。100kg級の西村とともに来年の300kg級リフターとして、楽しみな選手である。

今大会は、台風の上陸で日程変更などがあり、運営役員のご苦労はもとより、監督、コーチは体重調整など選手のコンディショニングに苦戦を強いられた。しかし、そうした状況の中で、最終日の+100kg級青木・小松両選手の高校記録更新合戦の熾烈な争いが、大会の最後をおおいに盛り上げてくれ、あたかも台風を吹き飛ばしてくれたような気分であった。

学校対抗戦の結果は、兵庫県の舞子高校が得点20点でついに初優勝を遂げた。昨年度優勝の宮城県県立農業高校は、2連覇を目指し善戦したが得点18点で惜しくも準優勝に甘んじた。3位には過去4回の最多優勝回数を誇る、埼玉県埼玉栄高校が得点17点で入り、相変わらず優勝圏内の実力を示した。来年は、埼玉栄歴るか!舞子連勝なるか!宮城県農2回目の優勝なるか!はてまたどこが優勝するか、楽しみである。



60kg級表彰式、左から1位角谷(珠洲実)、2位渡辺(夕張緑実)、3位中村(埼玉栄)。



67.5kg級表彰式、左から1位升田(鳥取西工)、2位佐藤(愛工名電)、3位清水(西宇治)。



75kg級表彰式、左から1位増井(徳島工)、2位藤田(多度津工)、3位菅野(小山)。



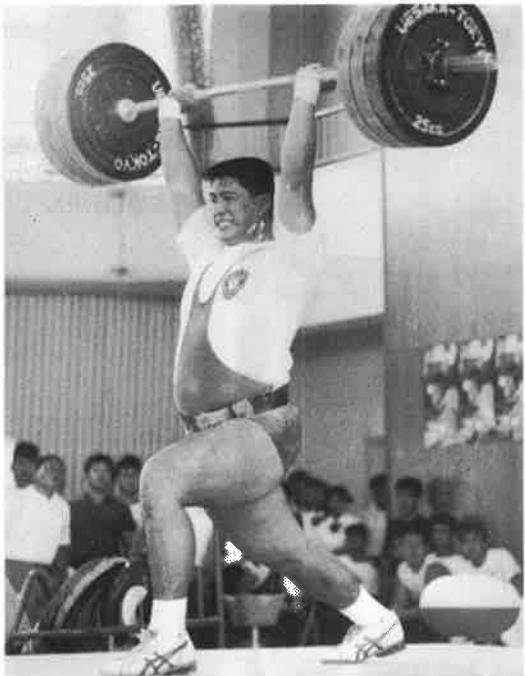
82.5kg級表彰式、左から1位上野(舞子)、2位小川(布佐)
3位古屋(日川)。



90kg級表彰式、左から1位木村(士別商)、2位安藤(多度津工)、3位南(大阪工大)。



100kg級表彰式、左から1位立花(八幡中央)、2位西村(水島工)、3位村上(村田)。



+100kg級青木(小山)、下半身の
安定感抜群のジャークで175kgの
日本高校新記録を樹立した瞬間。
昨年の100kg級優勝に引き続き、
堂々の2連勝を達成！



+100kg級表彰式、左から1位
青木(小山)、2位小松(日大明誠)、3位東江(南部工)。



昨年の優勝校宮城県農高校の連
覇を阻み、総合得点20点で、初
優勝を遂げた兵庫県舞子高校チ
ーム。監督の横山先生(前列中
央)を囲み、全員が笑顔に溢れた。

第39回全国高等学校総合体育大会

● 平成4年8月7日~10日 ● 宮崎県佐土原町

52kg級

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	鈴木 和之	宮城	県農業	3	51.35	82.5×	82.5	85	107.5	110	× 110	85	110	195
2	尾田 慎司	岐阜	土岐商業	3	51.00	80	85	87.5	100	105	107.5×	87.5	105	192.5
3	宮川 一宏	徳島	鳴門工業	2	51.15	75	80	82.5	97.5	102.5	105	82.5	105	187.5
4	榎木 明人	埼玉	埼玉栄	3	51.40	80	82.5×	82.5	102.5	105	105	82.5	105	187.5
5	永友 清	富山	小林	3	51.45	77.5	80	80 ×	102.5	105	107.5	77.5	107.5	185
6	小泉 浩一	山梨	吉田	3	51.55	80	82.5×	82.5	100	102.5	105	80	105	185
7	吉田 康男	沖縄	糸満	3	51.55	80	85	87.5×	97.5	100	100 × 100	85	97.5	182.5
8	湯本 浩章	兵庫	舞子	3	51.65	77.5	80 ×	80	100	102.5	105	80	102.5	182.5
9	牧山 和広	福岡	筑紫台	2	51.80	77.5	80	82.5×	100	102.5	105	80	102.5	182.5
10	谷川 高	茨城	土浦日大	3	51.45	80 ×	80	85 ×	100 ×	100	102.5×	80	100	180
11	河野 幸宏	山梨	谷村工業	3	51.50	80	85 ×	85	90	95	100 ×	85	95	180
12	阿部 魁則	北海道	士別	3	51.50	72.5	75	75 ×	75	95	100 × 100	72.5	100	172.5
13	服部 高明	三重	四中工	3	51.50	77.5×	77.5	82.5×	87.5	95	95 × 95	77.5	95	172.5
14	熊井 則孝	埼玉	上尾	3	51.45	75	77.5×	77.5 ×	95	100	100 × 100	75	95	170
15	岩間 拓也	青森	森	3	51.70	72.5	77.5	80 ×	92.5×	92.5	97.5×	77.5	92.5	170
16	武井 豊	群馬	神崎北	3	51.75	77.5	82.5×	82.5 ×	92.5 ×	92.5	92.5 ×	77.5	92.5	170
17	豊岡 健	徳島	鳴門工業	3	51.80	75	80 ×	80 ×	90	95	97.5×	75	95	170
18	白川 潔	愛媛	新居浜南	3	51.85	75	80 ×	80 ×	90	95 × 95	75	95	170	
19	伊藤 靖	沖縄	中部工業	3	51.30	70	77.5	82.5×	90	95 × 95	95 ×	77.5	90	167.5
20	藤本 昌大	福岡	九里大付属	3	51.35	72.5	77.5×	77.5 ×	95	97.5 ×	97.5 ×	72.5	95	167.5

56kg級

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	上原 大介	広島	広島電大付	3	55.55	95 ×	95	97.5×	110	115	120 ×	95	115	210
2	重山 康彦	宮崎	小林	3	55.20	85	90	92.5×	107.5	110	112.5	90	112.5	202.5
3	富永 痕志	鹿児島	岬工業	2	55.05	85	90	92.5×	110	115	115 × 115	90	110	200
4	和田 実	兵庫	舞子	3	55.30	90	92.5×	92.5 ×	110 ×	110	110	90	110	200
5	新垣 和也	沖縄	南部工業	3	55.00	87.5	92.5×	92.5 ×	110	115	115 × 115	87.5	110	197.5
6	斎藤 実	茨城	石崎第一	3	55.15	85	90 ×	90 ×	107.5	112.5 ×	112.5	85	112.5	197.5
7	川崎 健司	京都	海洋	3	55.40	87.5	90 ×	90 ×	110	115	115 × 115	87.5	110	197.5
8	平良 一善	沖縄	南部工業	2	54.80	85	90	92.5×	105	110	110 × 110	90	105	195
9	野村 隆正	鹿児島	鹿頸工	3	55.65	85 ×	85 ×	85	110 ×	110	110 × 110	85	110	195
10	植田 恵吾	福岡	筑紫台	3	55.85	85	90	92.5×	105	110	110 × 110	90	105	195
11	今岡 聰	大阪	大阪産大	3	53.80	85	87.5×	87.5	102.5	105	105 × 105	87.5	102.5	190
12	東郷 賢治	宮崎	延岡工業	2	55.70	85	87.5	90	100	105	105 × 105	90	100	190
13	工藤 刚	静岡	沼津学園	3	55.10	82.5×	82.5	87.5×	105	105	107.5 × 105	82.5	105	187.5
14	黒崎 勇二	香川	多度津工業	3	55.65	80	82.5	85 ×	100	105	107.5 ×	82.5	105	187.5
15	上田圭一郎	大阪	大阪工大	3	54.65	80	85	87.5×	95	100	105 ×	85	100	185
16	藤本 傲一	岡山	東岡山工業	2	55.15	77.5	82.5×	82.5	97.5	102.5	105 ×	82.5	102.5	185
17	吉田 隆寿	愛知	愛工大名電	2	55.70	80	85 ×	85 ×	100	105	105 × 105	80	105	185
18	島裕也	香川	土岐商業	3	55.55	75 ×	77.5	82.5	90	95	100	82.5	100	182.5
19	中澤 透	岐阜	土岐商業	3	55.10	75	80	85 ×	95	100	102.5 ×	80	100	180
20	山村 秀貴	徳島	板野	3	55.20	77.5×	77.5	82.5×	97.5	102.5 ×	102.5	77.5	102.5	180

60kg級

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル	
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク		
1	角谷 昌史	石川	珠洲工業	3	59.30	95	100 ×	100	122.5	125	125 × 125	100	125	225	
2	渡辺 裕斗	北海道	夕張勤労	3	59.45	92.5×	97.5	100	115	120	120 × 120	100	120	220	
3	中村 力矢	埼玉	埼玉栄	3	59.30	92.5	95 ×	95	122.5	127.5	127.5 × 127.5	95	122.5	217.5	
4	藤井健太郎	静岡	岡山	沿岸学園	3	59.00	95	97.5×	97.5 ×	120	125	125 × 125	95	120	215
5	柳松 英治	英治	鳥羽	3	59.10	97.5	100	102.5×	115	120	120 × 120	100	115	215	
6	平井 伸幸	京都	河内尚学	3	59.30	90	95 ×	95	120	122.5	122.5 × 122.5	95	120	215	
7	兼島 豊	沖縄	鹿頸工	3	59.50	102.5×	102.5 ×	102.5	112.5	117.5	117.5 × 117.5	102.5	112.5	215	
8	岩川 孝二	鹿児島	下関工業	3	59.35	95	100 ×	100 ×	115	117.5	117.5 × 117.5	95	115	210	
9	檜原 新吾	山口	高柳商業	3	57.65	95	100 ×	100 ×	110	112.5	112.5 × 112.5	95	112.5	207.5	
10	保井俊一郎	東京	高柳商業	3	58.60	87.5	92.5	95 ×	110	115	120 × 120	92.5	115	207.5	
11	丸山 仁	岡山	東岡山工	3	59.20	85	90	95 ×	115	117.5	117.5 × 117.5	90	117.5	207.5	
12	中小路智則	滋賀	堅田	3	58.10	87.5	92.5 ×	92.5	107.5	110	112.5	92.5	112.5	205	
13	神林 知	山形	平栗	3	58.85	90	95 ×	95 ×	115	120	120 × 120	90	115	205	
14	野村 剛司	群馬	前橋育英	3	59.00	90	95 ×	95 ×	110	115	115 × 115	95	110	205	
15	松元 武博	宮崎	小林	3	59.00	92.5	95 ×	95 ×	112.5 ×	112.5 ×	112.5 × 112.5	92.5	112.5	205	
16	満永 大助	長崎	西彼農	2	59.25	90	95	97.5×	110	115	115 × 115	95	110	205	

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル			
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク				
17	平良 和士	沖縄	糸満	3	59.20	92.5	95	×	95	×	110	115	×	115	92.5	110	202.5
18	前田 寧央	宮城	石巻	3	59.00	87.5	87.5	×	87.5	×	107.5	107.5	112.5	87.5	112.5	200	195
19	石井 広介	兵庫	舞子	2	58.35	85	×	85	90	×	110	115	×	115	85	110	195
20	熊澤 郁	神奈川	神田	3	59.40	80	85	87.5	102.5	107.5	112.5	×	112.5	87.5	107.5	195	195

67.5kg級

1	升田 友也	鳥取	鳥取西工業	3	66.30	105	110	112.5	130	135	×	135	×	112.5	130	242.5	
2	佐藤 公治	愛知	愛工大名電	3	65.55	105	107.5	110	127.5	130	132.5	×	110	130	240	240	
3	清水 豊	京都	西宇治	3	66.80	100	105	×	105	130	135	×	135	×	105	130	235
4	飯塚 将信	千葉	八千代松陰	3	65.55	100	102.5	105	×	125	130	×	130	102.5	130	232.5	232.5
5	三宅 敏博	埼玉	埼玉栄	2	65.20	102.5	105	×	107.5	122.5	127.5	×	127.5	107.5	122.5	230	230
6	柏山 奉久	愛媛	新居浜工業	3	66.30	100	105	×	105	120	125	×	125	105	125	230	230
7	石井 秀志	岡山	水島工業	3	65.90	95	97.5	100	125	127.5	130	×	100	127.5	127.5	227.5	227.5
8	大谷 広幸	栃木	小山園芸	2	63.80	95	×	100	100	117.5	122.5	125	100	125	125	225	225
9	黒田 泰行	北海道	札幌禾北	2	65.55	100	100	100	105	125	125	125	132.5	100	125	225	225
10	栗原 和也	埼玉	上尾	3	66.85	97.5	100	102.5	120	125	125	125	102.5	120	122.5	222.5	222.5
11	田中 朗生	山口	下関工業	3	65.75	92.5	95	×	95	125	125	125	125	92.5	125	217.5	217.5
12	戸塚 真吾	長崎	諫早農業	3	65.25	87.5	92.5	×	95	112.5	120	120	120	95	120	215	215
13	鈴木 清張	静岡	東海大工業	3	65.70	95	×	95	100	115	115	120	120	100	115	215	215
14	田島 英明	長崎	諫早農業	3	66.15	90	95	100	110	115	120	120	100	115	215	215	
15	守戸 雅幸	兵庫	柏生産業	3	66.15	95	100	100	115	120	120	120	95	120	215	215	
16	吉田 恵正	鹿児島	鹿商工	3	66.95	90	92.5	92.5	115	117.5	120	120	120	92.5	117.5	210	210
17	外川 寿	青森	森	柏木農業	3	66.35	92.5	97.5	97.5	112.5	112.5	115	115	92.5	115	207.5	207.5
18	土井 紀寿	福岡	九国大付	3	66.55	95	100	100	105	105	105	110	95	110	205	205	
19	松本真一郎	三重	龜山	3	66.90	87.5	92.5	92.5	115	117.5	120	120	120	87.5	117.5	205	205
20	閔 士	東京	東洋学園	3	67.50	85	90	95	105	110	115	115	95	110	205	205	

75kg級

1	増井 敦治	徳島	徳島工業	3	74.45	115	120	125	×	135	140	120	140	260		
2	森田 昌士	香川	多度津工業	3	74.25	105	110	112.5	125	130	132.5	112.5	132.5	245		
3	菅野 太作	栃木	木山	2	74.25	100	105	110	130	135	142.5	105	135	240		
4	笛山 力	山口	下関工業	3	72.80	100	100	100	105	125	130	130	105	130	235	
5	米山 幸平	山梨	吉田	2	73.40	102.5	107.5	110	125	130	130	110	125	235		
6	原田 梅次	北陸道	当別	2	71.35	102.5	107.5	107.5	125	127.5	130	102.5	130	232.5		
7	大内 修	埼玉	埼玉栄	3	71.90	105	105	105	110	125	127.5	130	105	127.5	232.5	
8	加賀谷 清	秋田	船岡水産	3	72.95	102.5	102.5	102.5	107.5	125	130	130	102.5	125	227.5	
9	永尾 賢司	滋賀	質屋	3	69.55	95	100	102.5	120	125	125	125	102.5	120	222.5	
10	三浦 智敬	山形	羽黒	3	72.25	92.5	92.5	92.5	97.5	130	135	135	92.5	130	222.5	
11	瀧邊 利也	鳥取	埼玉栄	3	73.55	100	100	100	100	122.5	122.5	122.5	100	122.5	222.5	
12	対馬 真市	青森	森	五所川原工	3	70.00	90	95	100	120	125	130	95	125	220	
13	松井 誠治	福岡	筑紫台	3	74.00	102.5	105	107.5	115	120	120	120	105	115	220	
14	市橋 信明	北海道	士別酪農	3	67.90	97.5	100	100	120	122.5	122.5	122.5	97.5	120	217.5	
15	佐藤 芳隆	茨城	城	土浦日大	3	72.05	95	100	100	120	120	125	95	120	215	
16	丸山 英樹	大分	杵築	3	73.35	95	100	100	115	120	122.5	122.5	95	120	215	
17	坂本 好司	石川	金沢	3	72.80	92.5	92.5	92.5	120	125	125	125	92.5	120	212.5	
18	渡部 陽介	福島	島	磐城	3	72.70	90	95	97.5	110	115	117.5	95	115	210	
19	中田 貴弘	青森	柏木農業	2	68.95	92.5	97.5	97.5	115	115	120	120	92.5	115	207.5	
20	北村 亮次	滋賀	賢	豊田	2	70.30	90	95	95	110	115	117.5	90	117.5	207.5	

82.5kg級

1	上野 栄介	兵庫	舞子	3	76.90	110	115	117.5	×	132.5	137.5	140	115	140	255
2	小川 哲也	千葉	葉布佐	3	80.05	102.5	107.5	110	130	135	140	110	135	245	
3	古屋 和洋	山梨	日川	3	81.00	105	105	105	130	135	140	105	140	245	
4	吉川 裕貴	宮城	鼎農業	3	80.70	97.5	100	102.5	135	135	142.5	102.5	135	237.5	
5	鶴田 稔	滋賀	移流	豊	3	79.45	100	105	107.5	120	125	130	105	130	235
6	岡 茂樹	山梨	日川	3	81.95	100	105	107.5	130	132.5	132.5	105	130	235	
7	村上 悅洋	山形	庄内農業	3	81.40	100	105	105	125	130	132.5	100	132.5	232.5	
8	森 大一	北海道	当別	4	75.05	97.5	102.5	102.5	125	130	132.5	97.5	136	227.5	
9	勝田 義雄	石川	飯田	3	76.90	100	105	105	127.5	132.5	132.5	100	127.5	227.5	
10	長岡晃一郎	三重	龜山	3	78.35	95	100	100	117.5	125	130	100	125	225	
11	柳川 健	秋田	秋田経法大付	3	79.85	95	100	105	120	125	127.5	100	125	225	
12	嘉数 忍	沖縄	南部工業	3	80.05	100	100	107.5	125	130	130	100	125	225	
13	森 晴堂	福岡	八幡中央	3	80.85	95	95	100	125	130	132.5	95	130	225	
14	上田 啓二	兵庫	尼崎東	3	80.65	95	95	95	125	130	130	95	125	220	
15	榎本 刚士	埼玉	上尾	3	75.05	95	100	100	120	122.5	122.5	95	125	212.5	
16	下田 勝也	千葉	八千代松陰	3	75.20	97.5	102.5	102.5	112.5	117.5	120	97.5	117.5	215	
17	大藤 利治	福井	井若狭東	3	80.30	95	100	100	110	115	115	100	115	215	

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ペースト		トータル			
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク				
18	伊藤 孝徳	新潟	新潟北	3	80.90	90	95	×	95	×	120	125	127.5×	90	125	215	
19	吉岡 祥博	奈良	大淀	3	81.25	95	100	×	100	×	120	×	120	95	120	215	
20	岩元 政貴	宮崎	小林工業	3	75.50	90	×	90	95		115	×	115	117.5	95	117.5	212.5

90kg級

1	木村 労広	北海道	士別商業	3	83.45	115	×	115	120	145	150	×	150	×	120	145	265
2	安藤 優聰	香川	多度津工業	3	83.55	105	×	105	110	130	135	137.5	110	137.5	100	137.5	247.5
3	南 昭	大阪	大阪工大	3	87.15	100	105	×	115	×	130	135	140	100	140	140	240
4	橋 隆寿	石川	金沢	3	89.35	102.5	107.5	×	107.5	×	132.5	137.5	140	×	102.5	137.5	240
5	田川 智宏	秋田	能代工業	3	87.10	107.5	110	×	110	×	130	135	135	×	107.5	130	237.5
6	太田 鶯	山形	庄内農業	3	85.75	95	100	102.5	125	130	132.5	100	100	100	132.5	132.5	232.5
7	石田 太郎	岡山	倉敷商業	3	87.90	100	×	100	102.5	127.5	127.5	132.5	102.5	127.5	100	127.5	230
8	渡辺政真	沖縄	糸満	3	89.35	100	105	×	105	×	130	130	135	×	100	130	230
9	岡本 博一	栃木	小山	3	82.65	92.5	97.5	100	100	122.5	125	125	×	100	125	125	225
10	柴田 直樹	愛知	名城大付	3	87.00	100	100	100	100	120	125	130	×	100	125	125	225
11	玉井 栄俊	栃木	南部工業	3	87.90	100	105	×	105	120	120	125	125	105	120	125	225
12	大門 春樹	石川	飯田	3	87.85	95	×	95	100	122.5	127.5	127.5	127.5	100	122.5	122.5	222.5
13	横田 孝郎	栃木	葛生	3	88.10	95	100	105	100	120	120	125	125	95	125	125	220
14	阿部 一弘	群馬	利根農業	3	87.90	92.5	92.5	97.5	125	130	130	130	130	92.5	125	125	217.5
15	木田 敏彦	青森	五所川原工	2	84.45	90	95	97.5	115	120	122.5	122.5	125	95	120	215	215
16	三浦 周也	千葉	八千代松陰	3	83.65	95	100	100	100	117.5	122.5	122.5	122.5	95	117.5	117.5	212.5
17	今 裕雅	青森	中里	3	87.55	90	95	95	95	120	120	120	120	90	120	120	210
18	松本 浩治	青森	安曇川	3	87.95	90	95	95	95	120	120	122.5	122.5	90	120	120	210
19	竹瀬圭一郎	福井	坂井農業	3	88.40	90	×	90	95	120	125	125	125	90	120	120	210
20	上野 真祐	熊本	鍋西	2	89.10	90	×	90	90	120	127.5	127.5	127.5	90	120	120	210

100kg級

1	立花 信生	福岡	八幡中央	3	95.55	110	115	120	×	145	150	152.5	115	152.5	267.5		
2	西村 博忠	岡山	水島工業	2	90.05	107.5	112.5	115		140	142.5	145	115	145	260		
3	村上 健作	宮城	村田	3	98.90	107.5	110	112.5		140	145	150	×	112.5	145	257.5	
4	中道 誠	群馬	前橋育英	3	92.75	105	110	112.5	137.5	137.5	140	140	112.5	140	140	252.5	
5	中田 宗保	大阪	阪大	3	99.15	110	115	115	115	135	135	140	140	110	135	245	
6	吉原 靖幸	滋賀	安曇川	3	90.45	110	110	110	112.5	130	130	130	130	110	130	240	
7	山田 淳	埼玉	形山	2	92.50	105	110	115	125	130	130	130	130	110	130	240	
8	小川 雄一	茨城	磯原	3	99.50	100	105	107.5	132.5	137.5	140	140	107.5	132.5	132.5	240	
9	田辺 豪	栃木	蓼生	3	97.10	102.5	102.5	107.5	135	135	137.5	142.5	102.5	135	135	237.5	
10	前田 進二	大阪	大阪工大	3	97.60	100	105	105	105	132.5	132.5	132.5	132.5	105	132.5	237.5	
11	甲木 研	新潟	新潟北	3	99.65	105	105	110	110	132.5	132.5	132.5	132.5	105	132.5	237.5	
12	田尻 将那	熊本	鍋西	3	91.40	95	100	100	100	130	135	135	135	95	130	225	
13	山田 芳通	愛知	愛工大名電	3	92.50	100	100	105	105	120	125	125	125	100	125	125	225
14	青木 克憲	和歌山	紀北工業	3	96.35	95	100	95	102.5	125	130	135	135	95	130	225	
15	竹田 裕二	北埼玉	川崎	3	99.10	95	95	95	97.5	125	127.5	130	130	97.5	127.5	127.5	225
16	高橋 信之	山梨	谷村工業	3	92.15	97.5	97.5	105	105	120	125	130	130	97.5	125	222.5	
17	野村 黙	石川	珠洲実業	3	91.15	92.5	97.5	97.5	97.5	120	125	125	125	97.5	120	217.5	
18	古川 一彌	福島	川俣	3	98.80	90	95	95	95	120	120	122.5	122.5	90	120	210	

+100kg級

1	青木 伸明	栃木	木下	3	115.00	122.5	127.5	HR	132.5	HR	170	HR	175	HR	132.5	HR	175	HR	307.5		
2	小松 政志	山梨	日大明誠	3	123.85	125	130	HR	135	HR	160	HR	167.5	HR	170	×	135	HR	167.5	HR	302.5
3	東工 慶昭	沖縄	南部工業	2	113.55	110	115	117.5	145	×	145	150	O	117.5	150	O	117.5	O	117.5	O	267.5
4	高山 匠人	秋田	横手	3	107.05	107.5	112.5	112.5	140	145	150	150	150	112.5	145	145	112.5	145	145	145	257.5
5	大友 孝幸	宮城	県農業	3	101.85	110	112.5	115	130	132.5	135	135	115	115	135	135	115	135	135	135	250
6	田中 健二	岡山	東岡山工業	3	100.10	102.5	102.5	107.5	130	135	140	140	107.5	140	140	107.5	140	140	140	247.5	
7	畠内 邦彦	山梨	吉田	2	103.25	107.5	107.5	112.5	130	135	140	140	140	107.5	135	135	107.5	135	135	135	242.5
8	内之倉和彦	宮城	小林	3	100.05	100	105	107.5	127.5	132.5	137.5	137.5	105	105	130	130	132.5	132.5	132.5	132.5	237.5
9	桜井 雅士	滋賀	安曇川	3	105.50	100	105	110	130	130	135	135	135	105	105	130	130	130	130	235	
10	寺川 政紀	島根	出雲農林	2	103.35	95	100	100	125	125	125	125	125	95	125	125	95	125	125	220	
11	田中 仁俊	熊本	鍋西	2	119.80	95	100	100	125	125	130	130	130	95	125	125	95	125	125	220	
12	鶴見 博邦	栃木	小山	2	128.65	95	97.5	97.5	125	125	125	125	125	95	125	125	95	125	125	220	
13	成田 健	秋田	秋田工業	3	133.30	95	100	100	125	130	130	130	130	95	125	125	95	125	125	220	

第6回全国中学生選手権大会

2年生中篠(56kg級) 青木(76kg級) 三種目共日本中学新記録! 観戦手記

『よし来い!』気迫のこもった、選手の掛け声が場内に響き渡る。次の瞬間、水を打ったように静まり返り、成功のブザーとともに歓声があがる。

今年で6回目を迎えた、全国中学生ウエイトリフティング選手権大会は、猛暑の中、ここ大谷中学校体育館を会場に行なわれた。

年々、競技の低年令化が進むとともに、競技のレベルも高くなり、今大会でも大会記録をはじめ、日本中学記録が次々と更新され、注目すべき記録もいくつか誕生した。

我が大谷中学校の選手は、地元開催ということもあり、大会開催が決定された日から、本番に照準をあわせ、例年なく気合いの入った練習を積み重ねてきた。

とはいっても部活動も教育活動のひとつ、決められた練習時間のなかで、いかに合理的に筋力アップし、記録を向上させていくかが大きな鍵となる。

しかし、本県のウエイトリフティングは、お家芸と自負しているように、これまで数々の有名選手を育ててきた実績があり、中学生から競技を始めた選手達は、現在、高校・大学・企業で日本のトップリフターとして活躍している。

自信はある。ただ、精神的にまだ未熟な中学生が、地元のプレッシャーに負けず、自分の力をいかに発揮することができるか、それが心配であった。

ところが、大会前々日の選手達の頭を見てその心配も消えた。なんと髪を5厘に刈ってきたのである。私が強制したわけではない。自分達で相談し、気合いを入れるために刈ってきたのだという。大会前の忙しさのあまり選手達の調整練習も、ろくに見てやることも

できなかったが、この事件が私に手ごたえを感じさせさせてくれた。そして、大会当日、それは見事に的中したのである。

この日出場した6人の選手達は、乗りに乗っていた。大会記録を次々塗り替え、日本中学新記録を樹立し、結果は9階級中4階級を制覇。優勝できなくても2位・3位に入賞するという、素晴らしい成績を収めることができ、普段はクラスでもあまり目立たぬ生徒達だが、この日は最高に輝いていた。

夏休みこそ、まったくくなってしまったが、選手達はそれ以上に感動の夏を体験したに違いない。これからも微力ではあるが、ジュニアの競技力向上のために努力していきたい。

(栃木県小山市立大谷中学校WJ部顧問
柏木 修)

今大会は、いくつか注目すべき好記録が樹立された。

56kg級優勝の中篠(群馬・大類中)は、2年生ながらよく健闘、3種目共日本中学新記録を更新したが、トータル187.5kgは、今年のインターハイ13位に当たる、立派な記録であった。

76kg級優勝の青木(栃木・大谷中)も、3種目全種目において日本中学新記録を樹立したが、ジャークは1本目からの記録更新となりトータル215kgは、従来の記録を大幅に上回るものであった。

また、64kg級優勝の白井(北海道・士別中)が、第1試技で樹立したスナッチ90kgの日本中学新記録も、見逃せない好記録であった。



60kg級優勝池沢(大谷中)、スナ
ッチ特別試技83kgの日本中学新
記録樹立の瞬間。



60kg級表彰式。(中央)優勝
池沢(大谷中)、(左)2位羽
鳥(荒砥中)、(右)3位大留
(士別中)



68kg級表彰式。(左1)2位久徳
(東和中)、(左2)優勝稻葉(大谷
中)、(左3)3位黒木(原山中)、
(左4)4位住野(桑中)、(左5)
5位佐藤(小高中)、(左6)6位
森(小高中)。



76kg級表彰式。(左1)2位加藤(羽黒中)
(左2)優勝青木(大谷中)、(左3)3位高
野(東和中)、(左4)4位細越(小高中)。



+76kg級表彰式。(左)2位平尾(藍住
中)、(中央)優勝中津原(大谷中)、(右)
3位猪瀬(大谷中)。

第6回全国中学生選手権大会

● 平成4年8月19日 ● 栃木県小山市立大谷中学校

48kg級

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	三井 靖彦	熊本	玉名中	3	47.45	55 ×	55	60 ×	70	75 ×	75 ×	55	70	125
2	竹田 芙家	徳島	藍住中	3	47.30	40	45	47.5	57.5	62.5	65 ×	47.5	62.5	110
3	滋賀 俊彦	福島	小高中	3	47.85	42.5	47.5 ×	47.5 ×	60	65	70 ×	42.5	65	107.5
4	左座 誠	熊本	筑邦中	3	47.90	40	42.5	45 ×	55	60 ×	62.5	42.5	62.5	105

52kg級

1	柿本 哲宏	北海道	士別中	3	49.80	60	62.5	65	77.5	80	85 ×	65	80	145
2	赤誠 裕孝	栃木	桑中	2	51.90	60	65	67.5 ×	72.5	77.5 ×	80 ×	65	72.5	137.5
3	松浦 健祐	徳島	藍住中	3	50.20	55	60 ×	60	70	75 ×	75	60	75	135
4	山下 徹	埼玉	鳩山中	3	48.85	47.5	50	52.5 ×	65	67.5	70 ×	50	67.5	117.5
5	桑山 真	和歌山	日進中	2	50.70	45	50	52.5 ×	52.5	67.5	70 ×	50	67.5	117.5
6	米村 久弥	熊本	筑邦中	3	51.75	50 ×	50 ×	50	60 ×	60	65	50	65	115
7	塙沢 洋津	群馬	荒砥中	2	50.65	45	47.5	50	55	57.5	62.5 ×	50	57.5	107.5
8	伊藤 政義	山形	羽黒中	2	51.95	45	50	52.5 ×	55	62.5 ×	62.5 ×	50	55	105

56kg級

1	中條 桂良	群馬	大館中	2	55.15	75	80 △	82.5 MR	95 △	100 MR	105 MR	82.5 MR	105 MR	187.5 MR
2	岩間 怜	広島	海田西中	2	55.50	70	75 ×	75 ×	80	85 ×	85	70	85	155
3	柏崎 英明	栃木	桑中	2	55.25	60	65	67.5	80	85	87.5 ×	67.5	85	152.5
4	大久保正和	山形	羽黒中	3	55.10	55	60	65 ×	70	72.5	75	60	75	135
5	小林 潤	福島	内郷一中	3	55.85	57.5 ×	57.5 ×	57.5	70	75 ×	75	57.5	75	132.5

★ 中條 桂良 スナッチ 85 × ジャーク 107.5 ×

60kg級

1	池沢 尚	栃木	大谷中	3	57.10	75 ×	75	80 △	100 ○	102.5 ×	102.5 ×	80 △	100 ○	180 ○
2	鳥羽 徳靖	群馬	荒砥中	3	56.05	67.5	70	72.5	82.5	85	87.5	72.5	87.5	160
3	大留 茂之	北海道	士別中	3	56.55	62.5	67.5	70 ×	80	82.5	85 ×	67.5	82.5	150
4	石崎 真司	栃木	桑中	2	57.80	60	65 ×	65	80	85	87.5 ×	65	85	150
5	庄司 悟	山形	羽黒中	3	59.60	55	60 ×	60	75	80 ×	80 ×	60	75	135
6	山田 和博	山形	羽黒中	3	59.25	55	57.5 ×	57.5 ×	70	75 ×	75	55	75	130
7	喜多 智行	徳島	藍住中	3	59.10	52.5	57.5 ×	57.5	65 ×	65	70	57.5	70	127.5
8	高田 聖大	北海道	士別中	2	57.90	50	55 ×	55 ×	60 ×	60 ×	60	50	60	110

★ 池沢 尚 スナッチ 83 MR ジャーク 103 ×

64kg級

1	白井 英和	北海道	士別中	3	62.50	90 MR	95 ×	95 ×	107.5 ○	110 ×	110 ×	90 MR	107.5 ○	197.5 ○
2	柏崎 正晴	栃木	桑中	3	60.70	70	75	80 ×	85	90	100 ×	75	90	165
3	大沢 永	群馬	荒砥中	3	61.20	62.5	65	67.5	80	85 ×	85	67.5	85	152.5
4	添野 悟	栃木	桑中	3	62.20	67.5	72.5 ×	72.5	80	85 ×	85 ×	72.5	80	152.5
5	谷口 和宏	徳島	藍住中	3	61.20	60 ×	60	65	67.5	72.5	75	65	75	140

順位	氏名	県名	所属	学年	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
						1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	深沢 一平	福島	内郷一中	3	63.30	62.5	65 ×	65 ×	70	75 ×	80 ×	62.5	70	132.5
2	神崎 和也	栃木	桑中	2	62.00	55	60 ×	60 ×	75	80 ×	80 ×	55	75	130

★ 白井 英和 スナッチ 95 × ジャーク 110 ×

68kg級

1	稻葉 秀男	栃木	大谷中	3	64.30	65	70	72.5	90	95	97.5×	72.5	95	167.5
2	久徳 哲也	和歌山	東和中	3	66.70	65	70 ×	70	87.5	90 ×	90 ×	70	87.5	157.5
3	黒木 康隆	埼玉	原山中	3	66.30	65	70 ×	70 ×	85	90	92.5×	65	90	155
4	住野 敏彦	栃木	桑中	3	66.90	70	75 ×	キ	80	85 ×	85 ×	70	80	150
5	佐藤 洋平	徳島	小高中	3	67.50	60	65 ×	65 ×	75	80	85	60	85	145
6	森 裕	福島	小高中	3	65.45	55	60 ×	60	70	75	77.5×	60	75	135
7	林 健一	栃木	桑中	2	67.25	55	57.5×	57.5	72.5	75	77.5×	57.5	75	132.5
8	山田 将史	群馬	荒砥中	3	67.00	47.5	50	55	67.5	70	75	55	75	130

72kg級

1	佐藤 貴幸	北海道	士別中	3	69.35	77.5×	77.5	80	100	102.5○	107.5○	80	107.5○	187.5
2	田中 善樹	栃木	大谷中	3	69.25	75	80 ×	80	95	100 ×	102.5×	80	95	175
3	福留 透	宮崎	小林中	3	68.95	75	80 ×	80	90	95 ×	95 ×	80	90	170
4	山田 仁	山形	羽黒中	3	70.90	65	70 ×	70 ×	87.5	92.5×	92.5	65	92.5	157.5
5	宮崎 広勝	群馬	場沢中	2	70.90	60 ×	62.5	67.5×	72.5	77.5	80 ×	62.5	77.5	140

★ 佐藤 貴幸 ジャーク 110.5×

76kg級

1	青木 秀範	栃木	大谷中	3	74.40	90 MR	95 ×	95 ×	115 MR	120 MR	125 MR	90 MR	125 MR	215 MR
2	加藤 敏行	山形	羽黒中	3	72.70	62.5	67.5×	67.5×	80	85	92.5×	62.5	85	147.5
3	高野 陽司	和歌山	東和中	3	72.50	55	60 ×	60 ×	75	80	82.5	55	82.5	137.5
4	細越 厚志	福島	小高中	3	74.05	55	60 ×	60 ×	75	80 ×	85 ×	55	75	130

★ 青木 秀範 スナッチ 100 × ジャーク 130 ×

+76kg級

1	中津原潤一郎	栃木	大谷中	3	94.30	82.5	87.5	90	110 ○	115 ○	120 ×	90	115 ○	205 ○
2	平尾 俊輔	徳島	藍住中	3	88.70	75	80	85 ×	95	100	102.5	80	102.5	182.5
3	猪瀬 宏	栃木	大谷中	3	121.65	60	65	70 ×	90	95 ×	95 ×	65	90	155

第27回日・韓親善(男・女)大会

110kg級吉本Jr日本新! 女子団体は日本連勝!

第27回日・韓親善(男・女)大会は、日本と韓国共に女子4名、男子6名、計20名が出場し、韓国のソウルで開催された。

日・中友好大会、日・韓親善大会を発展的に解消、新たに日本・中国・韓国の3か国による、対抗競技会を設ける計画が現在進行中である。それが実現すれば、日・韓親善大会は今回で最後となることになる。

日・韓親善大会、日・中友好大会共に、互いの国のリフターが切磋琢磨し、技量を磨くよい場所になっていたと思うが、さらに、この3か国対抗とすることは、大変有意義であり競技会として、飛躍的な盛り上がりが期待出来そうである。

振り返ってみれば、現在、アジアのウェイトリフティングをリードしているのは、中国・韓国、日本、及び北朝鮮など、いわゆる漢字文化圏の黄色人種である。そして、近頃、ヨーロッパが低調になってきたのに対し、反比例するかのように、中国、北朝鮮、韓国が台頭してきており、ことに中国はブルガリア、ロシアをいずれ打ち破るであろうと思われる勢いで奮進している。何しろ中国の役員ですら驚くほど中国の競技者人口は急速に増加しており、その数は何10万人いるか正確に分からぬとのこと、恐らく既に世界一の競技者人口に達しているはずである。

日本も頑張らなければならない。中国に統けとばかり、韓国、北朝鮮が伸びている。ひょつとすると、ウェイトリフティングはヨーロッパの時代からアジア、それも極東アジアの時代に移っていく気配を感じられてきたのだ。北朝鮮が3か国対抗に加わり、4か国対抗になったら、それは一層加速されるかも知れない。

そんなことを思いながら、すぐに過去になりつつある、日・韓親善の最後の大会の主だったところを振り返ってみよう。

<女子>

日・韓団体戦で、男子はほとんど勝つこと

が出来ない状況にあるのに対し、女子は、前回大会に引き続き、3対1で日本が圧勝を収めた。

日本のエース67.5kg級の長谷場久美は、今回は日本記録の更新はならなかったが、トータル202.5kgのままずますの記録で、韓国の元順伊に22.5kgの大差をつけて優勝した。

60kg級で韓国の姜嬉淑を退けた高橋百合子は、著しい進境を見せ、意欲的にジャークで100kgの日本新記録に挑戦して失敗したがトータル172.5kgを挙げ、日本のトップレベルに王手をかけるまでになった。

<男子>

一方男子は、残念ながら2対6で韓国の中に碎け散ったが、56kg級の池畠大はトータル260kgの好記録をマーク、一躍、今年度最高記録を挙げ、オリンピック予選の失敗から立ち直り、本領を発揮し始めた。

また、110kg級の吉本久也がスナッチで147.5kgのジュニア日本新記録に挑戦、惜しくも失敗したが、トータル325kgのジュニア日本新記録を樹立するなど、よく健闘した。

67.5kg級に出場した橋典人は、オリンピック予選失敗後、階段を転げ落ちるようにガタガタに崩れ、今回は、別人のような絶不調に陥った。潜在的な足腰の力量は岩田に劣らないものがあり、現状では60kg級でトップにあるのだから、一日も早く、気力と体調を取り戻し、ファンの期待に応えてほしい。若さがあるのだから……。

100kg級の佐野は、実力的に追いつけそうもない、韓国の対戦相手黄熙棟をよそに、マイペースでスナッチ140kgを挙げ、ジャークでは182.5kgのジュニア日本新記録に挑戦したが、失敗に終わった。

今回は将来性を期待される若手中心のチーム編成であったが、全体的には、その期待に応える記録も出るなど、可能性の一部が見えてきた。

第27回日・韓親善(男・女)大会

● 1992年8月25日 ● 韓国

【女子の部】

52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	吳 淑京	韓国	51.15	62.5	67.5×	67.5	80	85	87.5×	87.5	85	152.5
2	高橋 奏	日本	51.75	62.5	67.5×	67.5×	85	87.5×	87.5	62.5	87.5	150

60kg級

1	高橋百合子	日本	59.70	70	72.5	75	95	97.5	100	×	75	97.5	172.5
2	姜 媛淑	韓国	59.35	65	70	77.5×	85	90	×	90	70	90	160

67.5kg級

1	長谷場久美	日本	66.95	85	90	×	90	107.5	112.5	115	×	90	112.5	202.5
2	元 順伊	韓国	63.20	80	85	×	87.5×	100	105	×	110	×	80	100

75kg級

1	翁長真由美	日本	69.60	75	×	75	80	×	95	100	×	100	×	75	95	170
2	金 美愛	韓国	73.00	75	80	×	80	×	95	95	×	97.5×	75	95	170	

【男子の部】

52kg級

順位	氏名	国名	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル		
				1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク			
	小野寺浩重	日本	51.90	100	×	100	105	×	125	×	125	125	0	0

56kg級

1	池田 大	日本	55.85	110	×	110	115	140	145	150	×	115	145	260
---	------	----	-------	-----	---	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----

60kg級

1	桐原 正仁	日本	59.80	107.5	×	107.5	112.5	140	×	147.5	150	×	112.5	147.5	260
---	-------	----	-------	-------	---	-------	-------	-----	---	-------	-----	---	-------	-------	-----

67.5kg級

1	趙 傳虎	韓国	61.60	110	115	120	145	150	155	120	155	275	
2	橋 典人	日本	62.85	95	100	105	125	130	×	130	105	130	235

75kg級

1	金 鶴鳳	韓国	72.10	125	130	×	130	170	175	×	175	130	175	305
---	------	----	-------	-----	-----	---	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----	-----

90kg級

1	吳炳龍	韓国	89.40	140	145	150	180	185	—	150	185	335
---	-----	----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----

100kg級

1	黃熙棟	韓国	99.15	150	160	×	160	190	200	×	200	150	190	340
2	佐野 衛	日本	98.10	135	140	145	×	165	182.5	×	182.5	140	165	305

110kg級

1	姜錦台	韓国	100.95	145	150	×	150	185	190	195	×	150	190	340
2	吉本 久也	日本	106.25	135	×	140	145	180	185	×	185	145	180	325

★ 吉本 久也 スナッチ 147.5JR

+110kg級

1	朴草軍	韓国	120.45	145	150	×	150	185	200	×	200	150	200	350
---	-----	----	--------	-----	-----	---	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----	-----

第14回日・韓ユース大会

青木高校新 ジャーク177.5kg! 大会新も3つ樹立

第14回日・韓ユース大会は、大阪府羽曳野市の市民体育館において、8月30日(日)に開催された。

チーム対抗の勝敗は、75kg級と+110kg級を制し、昨年と同様に2階級制覇のみに留まつたが、中身は昨年の韓国選手不在クラスのみの制覇!?と異なり、競い合った上での勝利であった。これで通算成績は日本の2勝9敗となつた。

日本選手の中で注目の活躍をしたのは、+110kgでジャーク172.5kg、177.5kg、トータル302.5kgの大会新を樹立した青木延明であつた。ジャーク177.5kgは日本の高校生全階級を通じて挙上した最高重量の高校新記録である。

青木は、昨年も日・韓ユース大会の100kg級に体重99.65kgで出場、スナッチ110kg、ジャーク145kg、トータル255kgであったが、今回は体重も118.60kgに急成長、記録も大幅にアップしての快挙であった。このペースでいけば、多分、日本最年少ジャーク200kg級リフターに成長する可能性が大である。

見落とせないのは、体重123.70kgと、青木よりおよそ5kg重い体重で、青木とともに+110kg級に出場した小松政志である。小松はスナッチ130kg(大会タイ)からスタートしたが、3本目に成功する危うさであった。ジャークでも160kg1本成功のみと成功率は悪く、トータル300kg以上を目指していたであろうが、290kgに終わった。しかし、韓国選手の上位に立ち2位となつた。

今後、青木と小松は互いに競い合い、日本の重量級の主役級になる成長株であることは間違いない。そして、日本人初のトータル400

kgを目指して頑張って欲しい。

“勝負”して、青木とともに韓国選手を打ち破った、もう1人の日本選手増井啓治は、スナッチ120kg1本成功のみながら、韓国の姜東周に15kgの差をつけ有利な展開となり、ジャークでも1本のみ成功の137.5kgに止まつてしまつたが、トータル257.5kgで姜に7.5kgの差をつけて勝つ。しかし、増井としても記録的には物足りなかつたであろう。

韓国選手のなかで注目の選手は、今大会最年少選手李 康石であった。67.5kg級でスナッチ120kg、ジャーク150kg、トータル270kgを挙げたが、これは全日本学生の上位クラスに匹敵する優秀な記録であり、将来、韓国の中量級の中堅となりそうである。

今大会を見て感じたことは、昨年の敗北はほぼ全階級にわたり、実力差が明確に表れての韓国の圧勝であったが、今回は、実力で2階級を制し、さらに細かく見ると、2.5~5kgの僅差で惜しくも破れたクラスが2階級ありもし、もう一步の努力と、幸運の女神の味方があったなら、4対6と韓国に迫りえたかも知れないのだ。

ユースの韓国との力量の差は、それほど大きくなってきたかも知れない。日本のユースリフターは自信を持って、いっそうトレーニングに邁進し、果敢により重いバーベルを征服していくれば、いずれまた韓国に追いつき、追い越すことが出来る。そんな気配が感じられた今回の大会であった。

第14回日・韓ユース大会

● 平成4年8月30日 ● 大阪府羽曳野市 羽曳野市民体育館

52kg級

順位	氏名	国名	年令	体重	スナッチ			ジャーク			ベスト		トータル
					1	2	3	1	2	3	スナッチ	ジャーク	
1	金 東 永	韓国	18	51.55	80	85	87.5×	110	115	117.5	85	117.5	202.5
2	鈴木 和之	日本	17	51.85	80	85	×	105	110	112.5×	85	110	195

56kg級

1	朴 相 昊	韓国	17	55.40	90	95	100	115	120	122.5	100	122.5	222.5
2	上原 大介	日本	18	55.80	90	95	100 ×	110	115	120 ×	95	115	210

60kg級

1	鄭 東 一	韓国	18	59.85	100 ×	100	105 ×	125 ×	125	キ	100	125	225
2	角谷 昌史	日本	18	59.65	95	100	102.5×	120 ×	120	125 ×	100	120	220

67.5kg級

1	李 康 石	韓国	16	66.70	115	120	125 ×	145	150	155 ×	120	150	270
---	-------	----	----	-------	-----	-----	-------	-----	-----	-------	-----	-----	-----

75kg級

1	増井 敬治	日本	18	74.10	120 ×	120	125 ×	137.5	142.5 ×	142.5 ×	120	137.5	257.5
2	姜 乘 周	韓国	17	73.10	105	115 ×	115 ×	135	140	145	105	145	250

82.5kg級

1	鄭 岚 圭	韓国	18	80.80	130 ×	130	140	150	160 ×	160	140	160	300
2	上野 栄介	日本	18	77.20	110	115	120 ×	135	142.5	147.5 ×	115	142.5	257.5

90kg級

1	權 容 佳	韓国	18	88.40	120	125	132.5 ×	150	157.5	キ	125	157.5	282.5
2	木村 芳広	日本	18	83.80	120	125 ×	125	150	155	157.5 ×	125	155	280

100kg級

1	朴 富 豊	韓国	17	97.40	130	135	140	160	165	170	140	170	310
2	立花 信生	日本	17	96.60	110	120 ×	120 ×	120	130	140	110	140	250

110kg級

1	吳 承 卓	韓国	18	102.95	125	130 ×	130	155	160	キ	130	160	290
---	-------	----	----	--------	-----	-------	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----

+110kg級

1	青木 延明	日本	18	118.60	122.5	130 △	135.5 ×	165	172.5 ×	172.5 ○	130 △	172.5 ○	302.5 ○
2	小松 政志	日本	18	123.70	130 ×	130 ×	130 △	160	165 ×	170 ×	130 △	160	290
3	藩 治 慶	韓国	17	110.05	120	130 ×	130 △	150	160 ×	160 ×	130 △	150	280

★ 青木 延明 ジャーク 177.5○

クラブ紹介

べにはなクラブ

山形県といえば、齊藤 隆(モントリオール五輪60kg級4位、ジャーヴで何度か日本記録を更新)、佐々木保重(ロサンゼルス五輪67.5kg級6位、この大会で樹立したスナッチ日本記録140kgは、まだ破られていない)ら、優秀なリフターを輩出している。

現役には、富樫嘉文(110、+110kg級)と、鶴見英司(67.5kg級)ら、全日本のチャンピオン級のリフターが、山形県の主力として活躍しており、佐々木保重も若手を叱咤激励しながら今だ健在。

昨年の石川国体では、団体11位と上位を占め、さらに今年の山形国体では6位に浮上。国体開催地の意地を見せ面目を保った。

既に山形国体が終わってしまったが、今回は、山形県の国体代表チームの原動力といえる、べにはなクラブの日頃の活動の様子をご紹介しよう。

昭和59年(1984年)に、高校を卒業し地元に就職した、羽黒高校OB4～5名で「ウェイトを愛する会」を結成、活動を開始した。クラブの名称は、第47回国民体育大会が山形で開催されることになり、それにちなんでテーマを借用「べにはなクラブ」と命名することになった。

現在、会員は14名になったが、各々の勤務の都合で、午後8時から午後11時までの間にトレーニングしており、仕事とトレーニングの明け暮れで、本当にウェイトが好きでなければ続けられるものではないと思うが、仕事で疲れた心身にとっては、トレーニングはただ疲れを増すだけない、気分すっきりストレス解消になっている。

羽黒高校の道場を中心として、ほとんど全員が揃ってトレーニングすることはできないが、自分の空いている時間帯にトレーニングしているのが実状である。

何だろうと思われるかも知れないが「バーベル磨き」と称する会を我々は行なっている。いってみれば忘年会なのであるが、ただ単に、飲み食いして終わるのではなく一年間の反省を含め、会員の親睦を重んじ次年度に向けて決意を新たにする会なのであり、出身校・職場に係わりなくバーベル一本に集う、人間関係の持つ意義の深さをつくづく感じている。

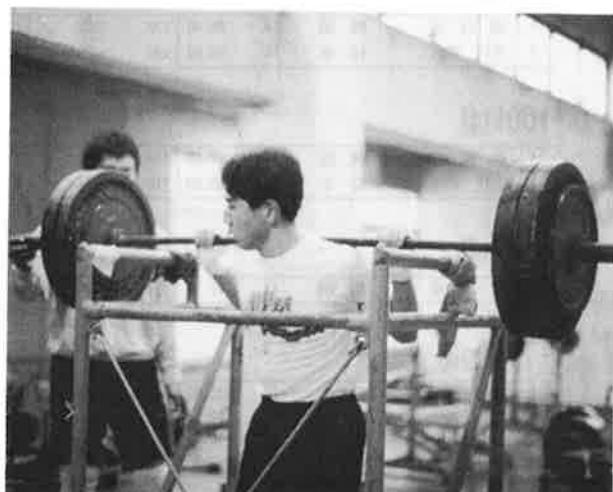
競技会関係では、会員全員が出場する県総合体育大会をはじめ、東北・北海道社会人大会、全日本社会人大会などに参加している。国体リハーサルを兼ね昨年、羽黒町民体育館で開催された第28回全日本社会人大会では、県体協・地元羽黒町体協の皆さんから大声援をいただき団体2位となった。

バルセロナオリンピックには惜しくも代表を送ることができなかつた。しかし、67.5kg級の鶴見は、ほぼ確定するかと思われところまで頑張り、本県の重量級のエース富樫もベストを尽くしたが、今一歩及ばなかつた。

べにはなクラブは、ウェイトを愛することを原点とし、国体を契機に会員の拡大、活動の活性化と定着化を促すよう、目標を定め頑張ってきた。(編集部……今後も頑張り続けて下さい。クラブの発展を祈ります)。

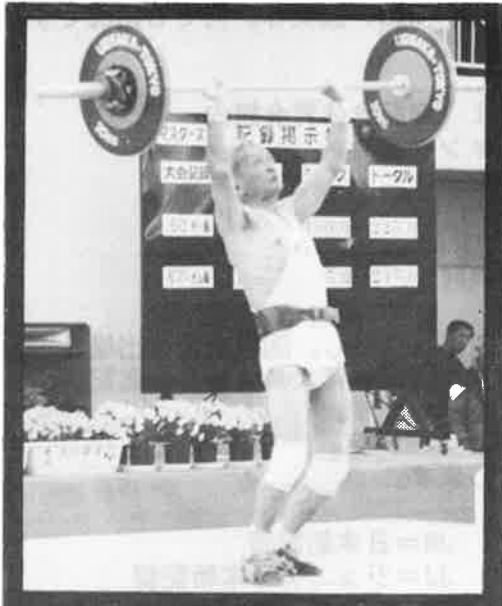


団体2位となった第28回全日本社会人大会最終日。国体代表も、この主力メンバーから出た。



羽黒高校の道場でトレーニングに励む、べにはなクラブのメンバー。

最年長リフター黒川さん死去



故黒川 晋(享年72才)氏

正真正銘、ウエイトリフティングを生涯愛し続けた大先達愛媛県ウエイトリフティング協会会長、黒川 晋氏が8月26日、急性心不全のため逝去。葬儀は新居浜市西原町の自宅で行なわれ、オリンピック銅メダリストの真鍋和人ら、多数の関係者が別れを惜しんだ。

黒川さんは温厚な人柄と裏腹に新居浜っ子の気性の激しさも持った、一途な方で、ウエイトリフティングをこよなく愛し続け、82.5kg級ジャーク日本記録、国体最多出場回数、還暦でのジャーク日本最高記録など、ギネスブックに掲載されそうなほどの数々の記録の持ち主であった。

恐らく、黒川さんの人生の中で、もっともドラマチックな思い出のひとつであったみられるのは、新居浜からオリンピック(ロサンゼルス1984年)に真鍋和人が出場、メダリストになったことであろう。

当時、真鍋はトレーニング中に、ラックジャーク150kgを拳上するなど絶好調。金メダルは極めて有望視されていたが、不運にも記録会で慢性的な痛みがあった手首が悪化、風が当たっても痛みが強烈に感ずるほどひどい状態となり、オリンピックまでの大切な1か月間は種目での

トレーニングは不可能となってしまった。

黒川さんは、オリンピックまでに1日も早く手首が治るよう、大変に心配され支援コーチとしてロサンゼルスに行ったものの、心労のあまりリポカリスエットを飲みすぎたり、夜中に「マナベ！」と絶叫、「取れるはずのメダルが取れなければ申し訳なくて故郷に帰れんすわ」と辛そうな眼差しで語っていた。

コーチ陣も、こうした真鍋の状況からメダルは絶望的と見ていた。ところが真鍋は「やれるところまでやる、チャンスがあれば金も狙う」と、無謀とも思えるほどの気力を持ち続け、黒川さんの祈りも通じてであろう、真鍋は失格かメダルかという際どい試技を乗り越え、かろうじて1本ずつの成功ながら、トータル232.5kgで見事52kg級銅メダルを獲得。優勝は中国のチェン グオチャン、トータル235kg、真鍋のベスト記録は247.5kgであった。

真鍋の怪我が悪化して以来、笑顔がなくなってしまった黒川さん、メダル獲得の瞬間に「やった！よかった！真鍋は立派じゃ！銅でもいいんじゃ、メダルを取ればいい、もうワシはなにもいうことないわ！」と、満面に笑みがよみがえてきた。

今年の春には、「ワシも、ついにウエイトリフティングの最年長者になってしまったですワ」と、足元をふらつかせながら語り、衰えが隠せなくなっていた。そして、バルセロナオリンピックが8月9日に終わり、世紀のイベントを見届けた後他界された。

指導者ぶらず、横柄な態度もなく、ひたすらウエイトリフティングを愛し続け、そのひたむきさが、ウエイトリフティング爱好者の心を打ち、語らずとも数々の教訓を与えて下さった。ウエイトリフティング界の人格者、黒川さんのご冥福を心からお祈りします。



ロサンゼルスオリンピック代表チームとともに記念写真に収まつた黒川さん(左端)、苦悩の真鍋の隣で心配を隠せない様子。

お 原 貨 い

本誌の内容を豊かにするために、競技会の写真、情報、論文等、何でも結構ですので、下記宛にお寄せ下さい。

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内
(社) 日本ウエイトリフティング協会
普及委員会出版担当宛

補 足 説 明

※ 「会報」の記録記載は、各体重階級の10位者迄（ただし、国際競技会出場日本選手はこの限りではない。また、高校総体及び国民体育大会は20位迄記載する。）とし、全出場者の記録は「年鑑」に掲載します。

※ 記録表中の記号等は、以下の意味を表しています。

WR=世界新記録	JR=日本新記録
WJ=ジュニア世界新記録	JJ=ジュニア日本新記録
AR=アジア新記録	UR=大学日本新記録
AJ=ジュニア・アジア新記録	HR=高校日本新記録
NR=日本以外の国の国内新記録	MR=中学日本新記録
NJ=日本以外の国の国内ジュニア新記録	
□=各種タイ記録（除く大会記録）	
○=大会新記録	
△=大会タイ記録	
★=特別試技	

ウエイトリフティング NO. 54

(社) 日本ウエイトリフティング協会会報

発 行 日 平成 4年12月25日

発 行 者 (社) 日本ウエイトリフティング協会

普及委員会

東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内

TEL 03 (3481) 2359

FAX 03 (3481) 2394

編集責任者 専務理事 桜井 勝利

編 集 長 普及委員会委員長 関口 脩
